

第 59 回神戸市環境保全審議会
令和 7 年 11 月 21 日
参 考 資 料 1

神戸市環境保全審議会規則

〔平成 9 年 7 月 30 日〕
規則 第 28 号

（趣旨）

第 1 条 この規則は、神戸市民の環境をまもる条例（平成 6 年 3 月条例第 52 号）第 53 条第 4 項の規定に基づき、神戸市環境保全審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第 2 条 審議会は、40 人以内の委員で組織する。

2 委員は、学識経験者その他市長が必要であると認める者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

3 前項に規定する委員のほか、市長は、特別の事項又は専門の事項を調査審議させるため必要があると認めるときは、当該事項を明示して臨時委員を委嘱し、又は任命することができる。

4 臨時委員は、当該事項が議題として審議されるときに限り会議に出席する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 臨時委員は、当該特別の事項又は専門の事項の調査審議が終了したときは、解嘱され、又は解任されるものとする。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、審議会に関する事務を処理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 審議会は、会長が招集し、会長が、その議長となる。

2 審議会は、委員及び議事に関係のある臨時委員の総数の過半数の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、環境局において処理する。

(施行細目の委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際現に神戸市環境保全審議会規則（昭和47年8月^市規則
教育委員会

第2号）の規定に基づき市長により委員に委嘱され、又は任命されている者は、この規則の規定に基づき委嘱され、又は任命された者とみなす。

3 前項の規定により委員とみなされた者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、1年3月27日とする。

(平成22年11月25日に審議会の委員である者の任期に関する特例)

4 平成22年11月25日に審議会の委員である者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則（平成22年11月11日神戸市規則第17号）

この規則は、公布の日から施行する。

神戸市環境保全審議会委員名簿

(50 音順、敬称略)

氏名	所属および肩書	備考
あじぐち 味口 としゆき	神戸市会議員（日本共産党）	
うえはた のりひろ 上畠 寛 弘	神戸市会議員（自由民主党）	WEB
うしまる あつし 丑丸 敦史	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授	WEB
うたか やすひろ 宇高 康弘	連合神戸地域協議会	
おおくぼ のりこ 大久保 規子	大阪大学大学院法学研究科 教授	WEB
かじ ゆきお かじ 幸夫	神戸市会議員（こうべ未来）	
くの ひろき 久野 洋貴	兵庫県環境部次長	欠席
こじま りさ 小島 理沙	京都経済短期大学経営情報学科 教授	
さとう まさゆき 佐藤 真行	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授	
しまだ こうじ 島田 幸司	立命館大学経済学部 教授	
しまだ ようこ 島田 洋子	京都大学大学院工学研究科 教授	
すみもと かずのり 住本 かずのり	神戸市会議員（日本維新の会）	WEB
たかお ひろ子 高尾 ひろ子	神戸市婦人団体協議会	
とくやま まさはる 徳山 雅 治	生活協同組合コープこうべ	
にしやま ともよ 西山 友世	兵庫県環境保全管理者協会	WEB
ひらい かつゆき 平井 克 幸	神戸商工会議所	
ほんだ ともみ 本田 智美	神戸市自治会連絡協議会	
みやた きみこ 宮田 公子	神戸市会議員（公明党）	
やつもと あや 八元 綾	環境省近畿地方環境事務所 環境対策課長	欠席
わたなべ のぶひさ 渡辺 信 久	大阪工業大学工学部 教授	

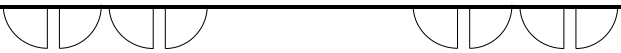
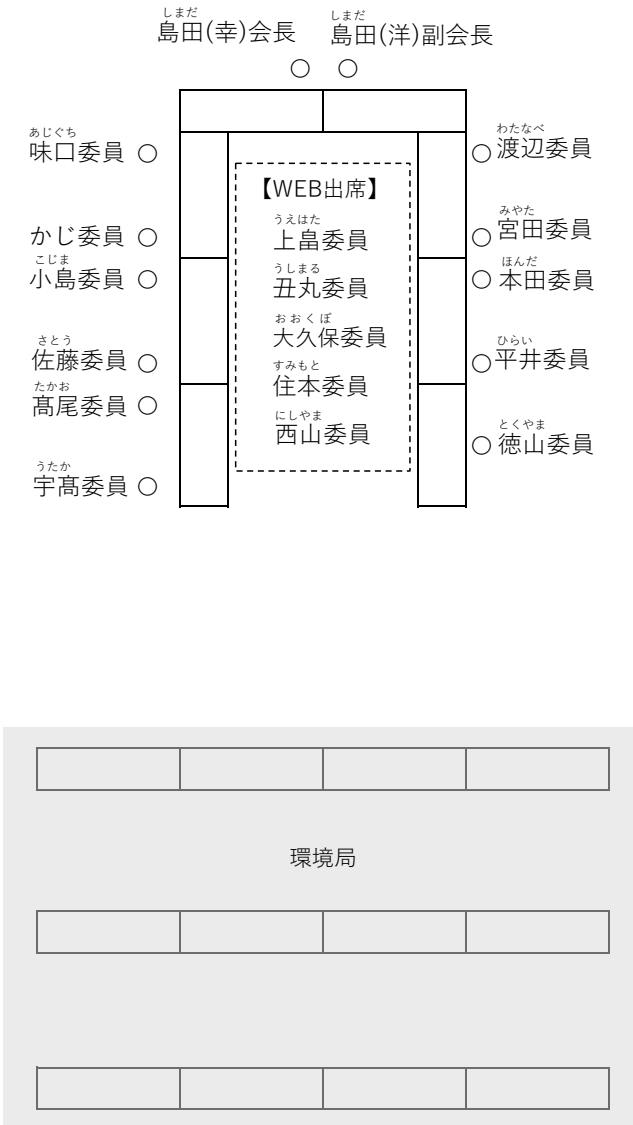
合計 20 名

座席表

(50音順)

エレベーターホール

受付



WEB出席に係る注意事項

1. Zoom の参加者名

氏名（苗字＋名前）としてください。

2. 会議中のビデオ及びマイク

ビデオはON、マイクはミュート（OFF）としてください。

3. 会議における発言方法

（１） マイクはミュートの状態で、Zoomの「手を挙げる」ボタンを押してください。

（２） 司会からの指名後に、ミュートを解除して発言してください。

（３） 発言後にマイクをミュートにしてください。

（４） 「手を降ろす」ボタンを押してください。

4. 会議中の事務局への連絡手段について

会議中の不具合など、事務局に連絡する際にはチャットをご利用ください。

5. Zoom画面の説明

※画像はパソコン画面です。



- ・マイクは基本ミュート（OFF）とし、発言時のみ ON にしてください。
- ・ビデオは常に ON にしてください。

- ・チャットはこちらから。

- ・「リアクション」のアイコンを押すと出てくる「手を挙げる」をクリックすると、画面左上に挙手アイコンが出ます。
- ・座長・司会に指名され、発言が終われば「手を降ろす」をクリックして挙手アイコンを消してください。

2024 年度
神戸市環境マスタープラン(環境基本計画)
年次報告書

神 戸 市

目 次

1. 基本方針・定量目標と重点施策一覧	1
2. 基本方針における定量目標と実績	2
3. 重点施策の実施状況	7

1. 基本方針・定量目標と重点施策一覧

環境マスタープラン計画期間： 2016年度～2025年度（10年間）

基本方針・定量目標	地域資源		施策名	施策の目的・概要
<p>【基本方針1】 二酸化炭素の排出が少ないくらしと社会を目指します。</p> <p>【マスタープランに定める目標】 2030年度 温室効果ガス排出量 34%以上削減（▲424万t-CO2） ※2013年度比</p> <p>【神戸市地球温暖化防止実行計画 （2023年3月改定）に定める目標】 2030年度 温室効果ガス排出量 60%削減（▲495万t-CO2） ※2013年度比</p>	<p>A 海 ま・山 れた・川 自然・田 園・街 の緑 などの</p>	重点施策 1	低炭素社会の実現に資するエネルギー政策の推進 ～省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの普及・エネルギー分野における革新的技術開発の推進～	再生可能エネルギーや分散型エネルギーの導入を進めるとともに、新たなエネルギーである水素エネルギーの利用拡大にも取り組み、大幅な二酸化炭素排出量の削減を目指します。
		重点施策 2	市域で発生する木質バイオマス等の活用	六甲山系などの森林整備に伴い発生する伐採材や木質系廃棄物を有効活用し、森林保全の推進及びエネルギーの地産地消も目指して都市型のバイオマスエネルギーとしての活用を推進していきます。
<p>【基本方針2】 資源を有効活用し、ごみができるだけ発生しないくらしと社会を目指します。</p> <p>【マスタープランに定める目標】 2025年度 家庭ごみ排出量 10%削減 ※2013年度比</p>	<p>C 地 域 富 の な つ 人 な 材 が と り</p> <p>D イ 充 多 ン 実 彩 フ し な う た 産 社 業 会 と</p>	重点施策 3	2R（リデュース・リユース）の推進 食品ロスの削減	3Rの中でも、「そもそもごみとして排出されるものを減らす」2Rの取り組みを優先し、計画的な買い物や食べ切りの推進による食品ロスの削減など、ごみのできるだけ出さない暮らしを確立していきます。
		重点施策 4	安定処理に向けた ごみ処理施設の効率化	計画的な整備、維持管理を行い3クリーンセンター体制を維持することで、全体最適を図りながら安定的にごみ処理を行います。中継施設などを活用し、運搬に係るCO2排出量の削減を行うとともに発電効率を高める対策を行うことなどで環境負荷の低減を図っています。
<p>【基本方針3】 生物が多様で、自然のめぐみが豊かなくらしと社会を目指します。</p> <p>【マスタープランに定める目標】 今見られる神戸の生きものの種数を維持する</p>	<p>A 緑 海 な・山 の・川 恵・田 ま・園 れ・自 た・然 街 の</p>	重点施策 5	外来種に対する在来種の保護 市民と取り組む外来生物の防除作戦	外来生物の生息調査や生態系への影響を把握するとともに、外来生物問題の普及啓発を行います。また、明石川水系（西区）や六甲アイランドを中心に、行政・市民団体等が一体となって外来生物防除を実施していきます。
		重点施策 6	適切に管理されてきた二次的な自然環境の維持 土地所有者・活動団体・大学等の連携による希少植物オカオグルマ等の保全	神戸が目指すべき里山の実現に向けた方策を明らかにし、市民団体・大学等の多様な主体と連携し里山の保全管理等を継続的に実施していきます。これにより、生物多様性の恵みを持続的に享受できる里山を目指していきます。
<p>【基本方針4】 安全・安心で快適な生活環境のあるくらしと社会を目指します。</p> <p>【マスタープランに定める目標】 法令及び神戸市が定める基準（大気質、水質、土壌、騒音等）の達成</p>	<p>A の園海 恵・・ ま街山 れの・ た緑川 自な・ 然ど田</p>	重点施策 7	光化学オキシダント、 微小粒子状物質（PM2.5） への対策	人の健康や生活環境への影響が少しでも低減されることを目的に、事業者への環境負荷低減の協力依頼や市民・事業者に必要な情報提供を行うことにより、安全・安心で快適な生活環境のあるくらしと社会を目指します。

2. 基本方針における定量目標と実績

基本方針1：二酸化炭素の排出が少ないくらしと社会を目指します。

- ・国は、2020年10月に2050年カーボンニュートラル宣言、2021年4月に2030年度の温室効果ガス排出量の目標を2013年度比46%削減へ引き上げ。
- ・本市は、2020年12月に2050年二酸化炭素排出実質ゼロを表明。更なる削減に向け、2022年度に「神戸市地球温暖化防止実行計画」を改定し、下記の目標を設定。

①市域全体の温室効果ガス排出量の目標

温室効果ガス排出量	2013年度実績 (基準年度)	2030年度目標 (2013年度比)
(単位:千トン-CO2)	12,392	4,957 (▲60%)

②市域全体の再生可能エネルギー導入量の目標

再生可能エネルギー 導入量	2019年度実績 (基準年度)	2030年度目標 (2019年度の約2倍)
(単位:MW)	約250	約500

〔温室効果ガス排出量等の状況〕

①市域全体の温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量	2030年度目標 (2013年度比)	2022年度実績	2023年度実績
(単位:千トン-CO2)	4,957 (▲60%)	8,599 (▲30.6%)	8,264 (▲33.3%)

②市域全体の再生可能エネルギー導入量

再生可能エネルギー 導入量	2030年度目標 (2019年度の約2倍)	2024年12月実績
(単位:MW)	約500	344

(参考) 神戸市環境マスタープランで定めた定量目標(2016年時点)と実績

①市域全体の最終エネルギー消費量及び温室効果ガス排出量

年度	最終エネルギー消費量 (2013年度比)	温室効果ガス排出量 (2013年度比)
2030【目標】	▲22%	▲34%
2020【実績】	▲29.4%	▲34.4%

※2022年度の市域全体の最終エネルギー消費量は▲27.7% (2013年度比)

②再生可能エネルギー等に関する導入目標

- 2020年度までに神戸市域におけるエネルギー消費量の10%以上導入
- 2030年度までに神戸市域における電力消費の30%を地域の分散型エネルギーにする(再エネ15%+コジェネ等15%)

〔2024 年度 神戸市地球温暖化防止実行計画 実施状況〕

① 脱炭素型ライフスタイルへの転換

- ・カーボンフットプリントの啓発（NP0 法人創エネ神戸による環境ラベルの紹介 8 回 計 181 人（こども・大人含む））
- ・「こうべ省エネチャレンジ」を実施（2024 年参加数 456 世帯）。
- ・KOBЕ ゼロカーボン支援補助金制度の活用（24 件採択）

② 水素エネルギーの利用促進

- ・水素サプライチェーン構築実証 液化水素輸送船の国際基準改定に向けた航行データの取得。
- ・水素エネルギー利用システム開発実証 液体水素の冷熱活用に向けた新たな技術開発を開始。

③ 電動車の普及促進

- ・燃料電池自動車や電気自動車などの導入補助金による支援（2024 年度 47 台）。
- ・公用車にクリーンエネルギー自動車を導入（公用車 2,315 台のうち 1,071 台がクリーンエネルギー自動車（うち 454 台が電動車）、このうち 85 台を 2024 年度に導入）。
- ・電動車の災害時活用を通じた市民啓発（外部給電・神戸モデル）を実施。

④ 再生可能エネルギーの拡大

- ・「太陽光発電及び蓄電池設備の共同購入事業」を実施（2024 年度参加登録者数 417 件、契約締結数 19 件）。
- ・「こうべ CO2 バンク制度」について、累計計 12,589 名（2024 年度末時点、太陽光発電：5,295 名、燃料電池：7,294 名）が入会。
クレジット創出（直近 2024 年度 7,251t-CO2 創出）

⑤ 産業の脱炭素化

- ・市内中小事業者を対象とした脱炭素経営伴走支援事業を実施（2024 年度 31 事業者）。
- ・市内中小事業者を対象としたセミナー等による啓発を実施（2024 年度約 6,500 名）。

⑥ 二酸化炭素の吸収・固定

- ・兵庫運河や須磨海岸、塩屋海岸において漁業者や市民団体、企業、学校など様々な団体がアマモの植栽などのブルーカーボンの取組を推進。なお、兵庫運河や須磨海岸においては、藻場の保全活動等を支える新たな資金メカニズムである J ブルークレジット制度を活用し、創出した藻場による二酸化炭素吸収量をクレジット化して民間企業等に購入されている。
- ・淡水域で世界初の水草による二酸化炭素吸収・固定（淡水カーボン）の評価方法の確立を目指し、神戸大学等が実施する研究支援や、鳥原貯水池と総合運動公園の奥池で、ササバモの移植試験を実施。
- ・ブルーカーボンや淡水カーボンについて、一般の方に広く知っていただくためにシンポジウム「地球を救う!? 増やせ、水中の森～ブルーカーボンと世界初の淡水カーボン」を開催。

基本方針2：資源を有効利用し、ごみができるだけ発生しないくらしと社会を目指します。

（大枠となる共通的な定量目標）

- ①家庭系ごみ（資源物※を除く）1人1日当たりの排出量を2013年度実績に対し10%削減
（目標年次2025年度）
- ②事業系ごみ（一般廃棄物）排出総量を2013年度実績に対し10%削減
（目標年次2025年度）

〔進捗状況〕

- ①家庭系ごみ（資源物※を除く）1人1日当たり排出量 ▲13.4%（2013年度比）
- ②事業系ごみ（一般廃棄物）総排出量 ▲8.3%（2013年度比）

	2013年度 (A) (5次基準年度)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (B)	2013年度比 増減率 (B)/(A)
家庭系ごみ(資源物※を除く) 1人1日あたりごみ排出量 (g/人・日)	500	479	461	441	433	▲ 13.4%
事業系ごみ総排出量 (トン)	195,400	176,600	180,232	180,804	179,142	▲ 8.3%

※資源物とは、家庭系ごみの排出量に含まれる、「缶・びん・ペットボトル」、「容器包装プラスチック」、「クリーンステーション古紙」、「リサイクル工房（古着・古布）」、「小型家電（回収ボックス）」。

〔基本施策の実施状況〕

- ・企業等と連携したつめかえパックの水平リサイクルの推進や、地域等と一体となったエコノバ（資源回収ステーション）を新たに24か所設置（2024年度市内45か所）。
- ・微生物の力で生ごみを分解させる「こうベキエーロ」の普及啓発を実施。
- ・地域団体が取り組む古紙などの資源集団回収活動に関して、助成を行うなどの支援を実施（2024年度回収量31,743トン）。
- ・市内公共施設やスーパーマーケットなどに小型家電リサイクルボックスを設置し、小型電子機器の回収を実施（2024年度51ヶ所・回収量約54トン）。
- ・各区のエコノバ（資源回収ステーション）等でびん回収を実施（2024年度回収量11,663kg）。
- ・地域が主体となって環境にやさしい取組を行う「エコタウンまちづくり」を進めるエコタウン団体を認定（2024年度市内130団体）。
- ・環境負荷の低減に資する物品等環境物品等の購入に関する「神戸市グリーン調達等方針」を定めグリーン調達を総合的かつ計画的に推進。

基本方針 3：生物が多様で、自然のめぐみが豊かなくらしと社会を目指します。

(大枠となる共通的な定量目標)

今見られる神戸の生きものの種数を維持する

〔進捗状況〕

神戸市の独自調査、有識者・市民の協力により実施された調査などにより、神戸の生きものに関する生息・生育状況の把握が進み、これら調査結果を基に生きものの種数※の精査を行った結果、2020 年度時点において神戸で見られる生きものの種数は約 8,000 種となっている。

なお希少種に関しては、猛禽類であるミサゴの繁殖やゲンゴロウ科の昆虫の生息状況が確認された。これらの種は、神戸の希少な野生動植物種を掲載した「神戸版レッドデータ 2020」において、新たに掲載もしくはランクが設定されている。

※ この数値に関しては、在来種だけでなく外来種も含まれている。目標の設定や評価については今後検討が必要と考えられる。

<参考>

- ・神戸で見られる生きものの種数（2020 年度）：7999 種
- ・レッドリスト 2020 の選定種数：932 種

ランク	今見られない種	A ランク	B ランク	C ランク	要調査
種数	67 種	201 種	280 種	265 種	119 種

■ミサゴ

(神戸市レッドリスト 2020 A ランク(繁殖))



■マツムシソウ

(神戸版レッドリスト 2020 A ランク)



〔基本施策の実施状況〕

- ・「生物多様性保全活動補助事業」として、地域の生態系の保全に係る活動や、生物多様性の啓発活動等といった市民活動に対し、補助金を交付（2024年度 8 件）。
- ・身近な水辺である川・池・海などの良好な環境を保全するため、地域住民によるクリーン作戦、水辺教室の開催などの環境保全活動の充実と連携の強化を図るため、1981 年に「神戸市市民の水辺連絡会」を結成し、各種の支援を実施（2024年度16団体参加）。
- ・「きせつの生きものさがしガイド」を利用した出前授業を実施（2024年度17校）。
- ・北区山田町にて、里地里山の魅力や現状を知ってもらうイベントを開催。

基本方針4：安全・安心で快適な生活環境のある暮らしと社会を目指します。

(大枠となる共通的な定量目標)

法令で定められた及び神戸市が自ら定める基準(大気質、水質、土壌、騒音等)の達成

〔進捗状況〕

①大気質の状況

一般環境大気測定局（一般局）15局、自動車排出ガス測定局（自排局）5局で測定を実施し、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、微小粒子状物質（PM_{2.5}）については全局で環境基準を達成した。一方、浮遊粒子状物質については、長期的評価において、測定した全局で環境基準を達成したが、短期的評価において2局で環境基準を達成しなかった。

また、光化学オキシダントについては全局で環境基準を達成しなかった。

②水質の状況

ア 公共用水域（河川、湖沼、海域）

a 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

38地点で測定した結果、湖沼、海域では全ての地点で環境基準を達成したが、河川では自然的要因によりふっ素が1地点で環境基準を達成しなかった。

b 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

- ・河川（BOD）は、環境基準点である4地点すべてで環境基準を達成した。その他の地点においても、都市河川、北神河川の水域、西神河川の水域で環境基準を達成した。
- ・湖沼（COD）は、環境基準点である1地点で環境基準を達成しなかった。その他の地点においても、環境基準値を達成しなかった。
- ・海域（COD）は、環境基準点である兵庫運河で環境基準（C類型）を達成した。

イ 地下水

概況調査9地点で調査した結果、1地点でふっ素が環境基準を達成しなかった。

③自動車騒音・道路交通振動の状況

ア 自動車騒音

a 環境基準

調査した幹線道路沿道23地点のうち、昼間及び夜間とも環境基準を達成したのは17地点、昼間のみ環境基準を達成したのは3地点、夜間のみ環境基準を達成したのは0地点、昼間及び夜間とも環境基準を達成しなかったのは3地点であった。

b 要請限度

調査した幹線道路沿道23地点すべてで昼間及び夜間とも要請限度値以下であった。

イ 道路交通振動

調査した幹線道路5地点すべてで、要請限度以下であった。

〔基本施策の実施状況〕

- ・市内主要6事業場のばい煙発生施設について、連続測定装置をテレメータシステムにより接続し、常時監視を実施。
- ・騒音規制法、振動規制法、県条例に基づく特定施設の届出に対し、規制基準の適合等について審査し、苦情が発生した場合には、立入調査を行い、問題が確認された場合は、改善対策の実施等を指導（2024年度：騒音規制法対象事業場数1,817、振動規制法対象事業場数492、県条例対象事業場数1,872）。

3. 重点施策の実施状況

重点施策

1

低炭素社会の実現に資するエネルギー政策の推進

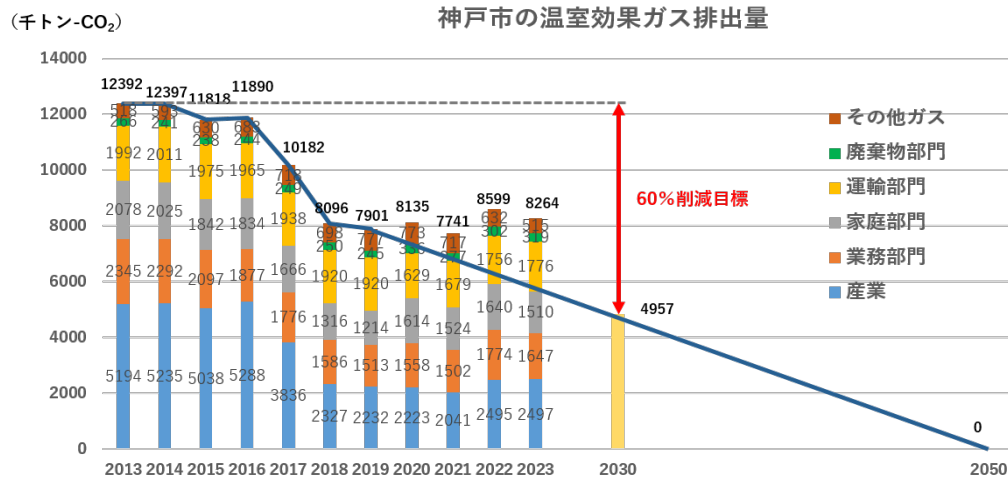
～省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの普及・エネルギー分野における革新的技術開発の推進～



取り組み概況

①市域全体の温室効果ガス排出量の目標

温室効果ガス排出量	2013年度実績 (基準年度)	2030年度目標 (2013年度比)
単位:千トン-CO2	12,392	4,957(▲60%)



○2022年度の温室効果ガス排出量 8,599千t-CO₂(基準年度比▲30.6%、前年度比+11.1%)

・主要な小売電気事業者である関西電力のCO₂排出係数が増加(2021年度 0.309→2022年度 0.420 [kg-CO₂/kWh])したことや、産業、業務、運輸部門においてエネルギー消費量が増加したことなどにより増加した。

・産業部門では、エネルギー産業においてエネルギー消費量が増加したため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。

・業務部門では、エネルギー消費量の約6割が電力由来であり、また前年度よりも電力消費量も微増しているため、CO₂排出係数の増加により温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。

・家庭部門では、省エネの取り組み推進によりエネルギー消費量が減少しているが、CO₂排出係数の増加により温室効果ガス排出量は増加したと考えられる。

・運輸部門では、航空での増加が大きいと推測される。新型コロナウイルス感染症拡大以前の状況に便数が回復したこと等によりエネルギー消費量が増加し、温室効果ガス排出量は増加したと考えられる。

・廃棄物部門では、ごみ全体の量は減っているが、CO₂排出係数の大きいプラスチック類の廃棄物量が増加しているため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。

○2023年度の温室効果ガス排出量 8,264千t-CO₂(基準年度比▲33.3%、前年度比▲3.9%)

・主要な小売電気事業者である関西電力のCO₂排出係数が減少(2023年度 0.401 [kg-CO₂/kWh])したことや、業務、家庭部門においてエネルギー消費量が減少したことなどにより温室効果ガス排出量が減少した。

・運輸部門では、船舶での増加が大きいと推測される。神戸港において旅客船・貨物船共に入港数が増えたため、温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。

・産業、廃棄物部門では、2022年度と同様の理由で温室効果ガス排出量が増加したと考えられる。

(単位:千トン-CO₂)

統計区分		2013年度実績 (基準年度)	2021年度実績 (2013年度比)	2022年度実績 A (2013年度比)	2023年度実績 B (2013年度比)	B-A (前年度比)
二酸化炭素	産業部門 (製造業、建設業、農林水産業等)	5,194	2,041 (▲60.7%)	2,495 (▲52.0%)	2,497 (▲51.9%)	2 (+0.1%)
	業務部門 (事務所、店舗、銀行、病院、ホテル等)	2,345	1,502 (▲35.9%)	1,774 (▲24.4%)	1,647 (▲29.8%)	▲127 (▲7.1%)
	家庭部門 (家庭での電気・ガス・灯油の消費)	2,078	1,524 (▲26.6%)	1,640 (▲21.1%)	1,510 (▲27.3%)	▲130 (▲7.9%)
	運輸部門 (自動車、船舶、鉄道、航空)	1,992	1,679 (▲15.7%)	1,756 (▲11.8%)	1,776 (▲10.8%)	20 (+1.1%)
	廃棄物部門 (プラスチック類、廃油の焼却)	266	277 (+4.2%)	302 (+13.3%)	319 (+19.9%)	17 (+5.8%)
	その他ガス (メタン・一酸化二窒素・代替フロン等4ガス)	518	717 (+38.5%)	632 (+22.2%)	516 (▲0.5%)	▲116 (▲18.5%)
合計		12,392	7,741 (▲37.5%)	8,599 (▲30.6%)	8,264 (▲33.3%)	335 (▲3.9%)

②市域全体の再生可能エネルギー導入量

目標値(2030年度):約500MW(2019年度実績(約250MW)の約2倍を目安とする。)

○2024年度の再生可能エネルギー導入量 344MW(2024年12月実績)

・2019年度導入実績より38%増加、2023年度実績より4.2%増加した。

2024年度の取り組み実績

	市民向けの取り組み	事業者向けの取り組み	行政の取り組み
省エネルギーの推進	【次世代自動車の普及啓発】 ・次世代自動車等の啓発イベント(兵庫カーライフフェスタ、EV:LIFE KOBE)での啓発活動  【こうべ省エネチャレンジ】 ・2024年度 参加者 456世帯 1.5t-CO ₂ の削減 ・2023年度 参加者 364世帯 4.7t-CO ₂ の削減	【市内中小事業者を対象とした脱炭素経営伴走支援事業】 ・ひょうご脱炭素経営スクール 2024年度 23事業者 ・カーボンニュートラル経営支援事業 2024年度 8事業者 ・セミナー等による啓発 2024年度 約6,500名 【環境保全協定】 ・2024年度末 締結者数 100事業者 ・2023年度末 締結者数 102事業者 【KEMS】 ・2024年度末 認証団体 178社 ・2023年度末 認証団体 183社 	【神戸市グリーン調達等推進基本方針】 ・庁内における電力の環境配慮型契約 (当該年度契約締結施設数) 2023年度 調達施設 7施設 2022年度 調達施設 0施設 【高効率照明の導入】 ・公共建築物等の照明について、LEDの導入を推進 LED 等の高効率照明を導入している公共施設 2023年度時点 50.7%
再生可能エネルギーの普及	【住宅への太陽光発電の導入促進】 (太陽光発電・蓄電池設備の共同購入事業) ・2024年度 契約締結数 19件 ・2023年度 契約締結数 17件 【こうべCO₂バンクのクレジット創出】 ・2024年度 2,409t-CO ₂ (太陽光) ・2024年度 4,842t-CO ₂ (エネファーム) (こうべCO ₂ バンク)創出 	【環境省交付金事業「脱炭素先行地域」の取組】 ・2024年9月に採択 ・対象エリア内企業による省エネ・再エネ導入の促進 (2025年度からの5年間で6MWの再エネ導入を目指す)   【ペロブスカイト太陽電池の実証実験】 ・神戸空港をフィールドに企業と連携しペロブスカイトを設置 ・空港基準の耐風性能など安全性を確認。2026年度末まで  	【クリーンセンターにおけるごみ発電(売電量)】 ・2024年度 127,760,654kWh ・2023年度 130,586,022kWh  【こうべバイオガス発電(売電量)】 ・2024年度 10,858,524kWh ・2023年度 5,731,776kWh  
革新的技術開発の推進	【こうべ油回収チャレンジ～Kobe Fry to Fly Project～】 ・2024年10月より市内4拠点で、家庭系廃食用油の回収を開始、持続可能な航空燃料(SAF)等として実証的に活用 ・2025年3月までで約800Lを回収  	【水素サプライチェーン構築実証】 製造、液化水素として国内へ輸送・貯留をする実証事業。 2024年度は液化水素輸送船の国際基準改定に向けた、航行データの取得を行った。 【水素エネルギー利用システム開発実証】 水素を燃料とする水素CGSの開発事業。2024年度は、液体水素の冷熱活用に向けた技術開発を継続して実施した。   【次世代自動車導入の普及促進】 ・2024年度 補助件数 47件 ・2023年度 補助件数 75件	【水素関連の協議会】 ・神戸・関西圏水素利活用協議会(オブザーバー参加) ・水素バリューチェーン協議会 ・兵庫県水素社会実装をめざす自治体連絡調整会議 【外部給電・神戸モデル】 災害停電時を想定した、次世代自動車による外部給電事業の推進 【公用車への次世代自動車導入率】 ・2024年度 84.5%(乗用用途車) ・2023年度 82.0%(乗用用途車)

※前年度の数値は比較のための参考値

※集計時期等の都合上、一部、2022年、2023年度実績

更なる推進に向けた課題

・2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、神戸市地球温暖化防止実行計画の新たな2030年度温室効果ガス排出量削減目標(2013年度比60%削減)を達成するためには、省エネルギーのさらなる徹底や、再生可能エネルギーの最大限の導入、新たな技術革新の推進等、あらゆる分野で、でき得る限りの取り組みを進め、温暖化対策をより強力に推進していく必要がある。

・引き続き各種支援制度を発信することにより、建築物省エネルギー化の推進、公共施設におけるパネルの設置促進、次世代型太陽電池の設置検討などを行うが、2024年9月に国から「脱炭素先行地域」に選定された「医療産業都市エリア」及び「港湾エリア」においては、太陽光パネル設置等に対する補助、再生可能エネルギーの自立型電源としての特徴を活かしたレジリエンス強化や、EV船の蓄電池を活用した電力供給モデルの検討などに取り組み、将来的な他の市域への拡大にもつなげていく。

自己評価

B

(特記事項)

(評価の説明)

A

←

B

→

C

順調

概ね順調

遅れている又は停滞している

(評価の理由)
・2022年度の市域における温室効果ガス排出量は、主に電力の二酸化炭素排出係数の影響により、前年度比べて11.1%(858千トン)増加しているが、2023年度は電力の二酸化炭素排出係数の影響や最終エネルギー消費量の減少により、前年度と比べて3.9%(335千トン)減少した。
・2023年度の排出量は、基準年度(2013年度)と比べて33.3%(4,128千トン)の削減となっている。2030年60%削減のためには更なる削減が必要であるので、省エネルギーのさらなる徹底や「脱炭素先行地域」における再生可能エネルギーの最大限の導入など、あらゆる温暖化対策を着実に進めていく。

7

重点施策

2

市域で発生する木質バイオマス等の活用

6

7

12

13

15

17

取り組み概況

・第7次エネルギー基本計画において、バイオマス発電はコストの大半を収集・運搬等の燃料費が占める構造にあることに加え、昨今では燃料需給のひっ迫も見られており、事業の安定継続が課題であるとしている。

・神戸市では、2012年度の「導入事業調査」、2017年度の市有山林(北区小河山林)をモデルとした新電力事業者による事業化可能性調査など、市域の木質バイオマス活用の事業化に向けて調査・検討を実施してきた。

・木質バイオマスの活用については、以下の課題があげられる。

- ①森林の多くを伐採経費の負担が大きい広葉樹林が占めている
- ②林業従事者が不在で、継続的な森林保全整備の担い手育成が必要である

・このため、市内においては安価かつ安定供給可能な端材のサプライチェーン構築は難しく、費用対効果や持続可能性を踏まえた、伐採木等の活用方法の検討が必要となる。

2024年度の取り組み実績

①木材としての活用

・神戸市では、2012年に「六甲山森林整備戦略」を策定し、森林を美しく健全な状態で次世代に引き継いでいくための整備を進めている。

具体的には県民緑税や森林環境譲与税等を活用し、放置された森林や防災上重要性の高い森林を整備するとともに、森林資源の地産地消を促進している。

・2024年度は、森林資源の活用促進に向けて2021年度から試行運営を行っていた「こうべ森と木のプラットフォーム」の本格的な運営が始まった。

行政や森林所有者、事業者等すべての関係主体が連携するプラットフォームとして、4つの取組(①地域の森林を育む、②関わり創出、③木材を活かす、④ストック・流通支援)を軸に全市展開や事業継続性の確保、各関係主体との情報共有の仕組みづくりなどを行っていく。

この中で、「神戸市産材」としての木材の流通を目的として、神戸産木材等のブランド化を検討し、2025年6月に「KOBE WOOD」の仕組みを構築した。

「こうべ森と木のプラットフォーム」には、2025年7月7日時点で、122団体・個人、262人が参画しており、年々増加している。

(参考) 木材の活用事例



②炭素貯留

- ・2022年度より、神戸の脱炭素に繋がる取組にチャレンジする市民や事業者等を応援する「KOBEゼロカーボン支援補助金」の募集を開始し、放置林や果樹の剪定枝をバイオ炭やチップに加工する事業の採択・支援を行っている。
- ・2024年度は、放置竹林等の伐採木から製造したバイオ炭や竹チップを畑の土壌改良材等として散布することで、炭素貯留につなげる取組を行った。
- ・あわせて市民参加型の里山・竹林整備活動やワークショップを開催し、地域のカーボンニュートラルに対する意識の醸成につなげていく。

(参考)製造したバイオ炭(左)と竹チップ(右)



更なる推進に向けた課題

○課題

- ・市内の森林資源量を把握し、計画的に森林整備および木材搬出を進めることで、安定的な供給を図ることが必要。
- ・森林資源を持続可能な状態で循環利用する仕組みの構築が必要。

○伐採木活用のための調整事項

- ・「KOBE WOOD」としての木材の活用や、バイオ炭・チップの製造など、地域で使いやすい方法で、需要先を選定する。
- ・木材の搬出方法、製材など、適切に活用するためのスキームの構築と、各種許可申請の確認を引き続き行っていく。

○方向性

- ・木質バイオマス等は、発電だけでなく、木材やバイオ炭等による炭素固定のほか、熱利用などの活用方法もあり、地域の資源として地産地消で活用できるよう、多角的な検討を進めていく。

自己評価

B	(特記事項)	(評価の説明)	A	B	C
			順調	概ね順調	遅れている又は停滞している
(評価の理由)					
・森林整備における伐採木の売却及び活用に取り組んだ。 ⇒ 2024年度実績:約114m3(約183万円)					
・森林資源の活用推進に向けたこうべ森と木のプラットフォームの本格運用を開始し、神戸産木材のブランド化の検討を行うとともに、これまで実施してきたバイオ炭・チップの製造に加え、備長炭の試作・販売を行った。					
・2024年度「KOBEゼロカーボン支援補助金」において、10件の木質バイオマスに関する活動の補助を行った。 ⇒ 2024年度実績:23t-co2(※木質バイオマス関連事業10件のうちチャレンジ枠3件のco2削減量)					

2R(リデュース・リユース)の推進 食品ロスの削減



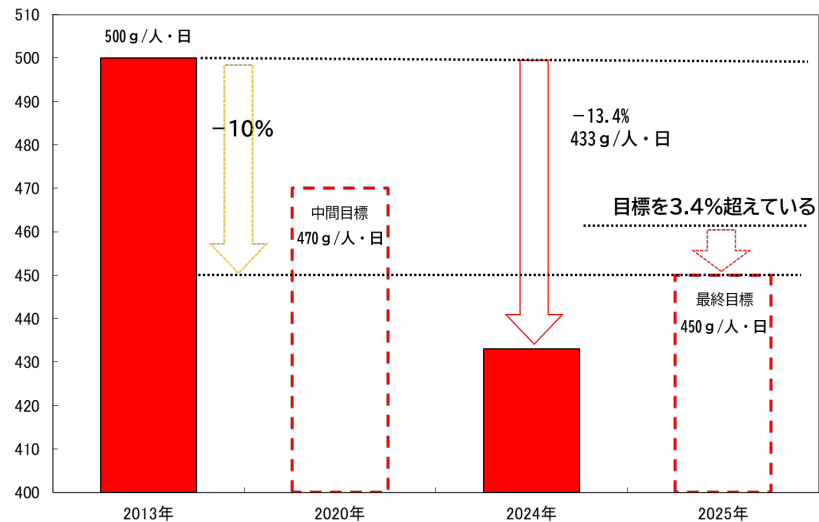
取り組み概況

○家庭系ごみ排出量

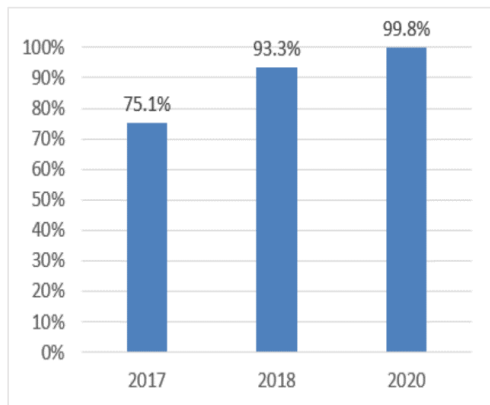
削減目標 **－10%**(2013年度比、目標年次2025年度) ※第5次神戸市一般廃棄物処理基本計画

進捗状況 **－13.4%(2024年度実績)**

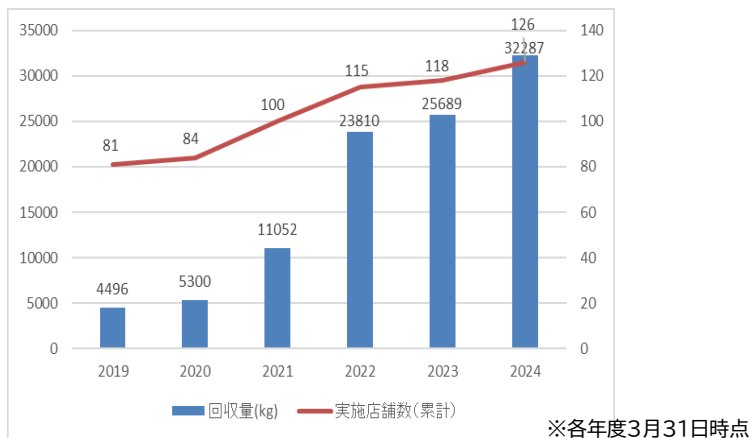
家庭系ごみ1人1日あたり排出量(資源物除く)



食品ロスの認知状況の推移(アンケート調査)



フードドライブ実施店舗数、回収量



※各年度3月31日時点

2024年度の取り組み実績

アクションメニューに基づく食品ロス削減普及・啓発

燃えるごみに含まれる食べ残しや手つかず食品等の「食品ロス」を削減するため、「神戸市食品ロス削減アクションメニュー」に基づき、小売事業者等と連携し、食品ロス削減に向けた取り組みを実施した。

<余剰食品・未利用食品の有効活用>

①フードドライブの拡大

・新たにフードドライブを開始する店舗に対して、コンテナボックス(回収箱)、のぼり等の備品を提供。

・2024年度は新たに、リサイクル工房(あづま、ほくしん)・尼崎信用金庫・無印良品・サンテレビでフードドライブを開始。**年間32トンの食品を回収し、こども食堂や児童養護施設等に食品を提供した。**

※協力事業者:コープこうべ、イオン、ダイエー、トーホーストア、光洋、エニタイムフィットネス、無印良品、尼崎信用金庫、リサイクル工房(あづま・ほくしん)・サンテレビ**(累計全126か所)**

②神戸市フードバンク活動支援助成制度

・市内のフードバンク活動団体を支援するため、2020年度にフードバンク活動支援助成制度を創設。2020年度より「フードバンク関西」、2022年度より「神戸こども食堂ネットワーク」への支援を行っている。

<発生抑制の推進>

③食品ロス削減意識の醸成

・**10月の食品ロス削減月間**に、「**こうべ環境博覧会『かんぱく』**」「**イオンモール神戸北でのイベント**」にて、食品ロス削減ブースの設置・食品ロス削減セミナーの開催などにより啓発を行った。

④食べ物を大切にする購買行動「てまえどり」の普及啓発

・市内スーパーやコンビニなど事業者と連携し、店舗売り場で「てまえどり」を呼びかける啓発POPを掲示。

※協力事業者:コープこうべ、イオン、ダイエー、トーホーストア、神戸市小売市場連合会、セブン-イレブン、ローソン、マルアイ、光洋、A-プライス、関西スーパー、ヤマコ山本商店

⑤食品ロス削減協力店の登録

・「神戸市食品ロス削減協力店」に対し、ポスターやステッカーなどの啓発資材を配布するほか、市のホームページに掲載し、PRを実施した。また、ホテル業界などに対して登録を働きかけた。

※登録店舗数:200店舗 量が少ないメニューの設定に取り組んでいるのは40店舗、持ち帰り対応を行っているのは23店舗

⑥「mottECO」

環境省が提唱する、飲食店で食べきれなかった料理を「お客様の自己責任で」持ち帰る「**mottECO**」(モtteコ)を推進するため、消費者庁及び厚生労働省が作成した「食べ残し持ち帰り推進ガイドライン～SDGs目標達成に向けて～」を、市HPに掲載した。



<生ごみ減量施策の推進>

⑦こうベキエーロの普及促進

・2023年度より、土の中の微生物の力で生ごみを分解するコンポストの一種「キエーロ」の普及を進めている。

・2024年度は、キエーロを始めたいと思っている方への助言、サポートを無償で実施し、キエーロに使用するプランター等の容器と土を紹介・販売いただく「こうベキエーロサポート店」制度を創設し、1店舗目の登録を行った。

・出前トークを地域団体、各種学校、アーバンファーム向けに実施した。

・小学校においては、給食残渣等の生ごみを児童がキエーロで処理し、その土を利用して学習園で野菜を有機栽培することを通じて、ごみの減量や資源循環を学ぶ環境教育を市内2校でモデル実施した。



更なる推進に向けた課題

・イベント等で食品ロスダイアリーを普及し、取組んでいただくことで、家庭での食品ロス発生量と発生理由を自覚し、食品ロス削減に向けた具体的な取組を行うためのきっかけにいただく必要がある。

・小売店や飲食店に食品ロス削減の取り組みを行っていただくための広報を強化する必要がある。

・より多くの方にキエーロに取り組んでいただくため、こうベキエーロサポート店の登録を増やすとともに、小学校でのキエーロによる食の循環教育を継続性のあるプログラムにし、実施校を拡大していく必要がある。

自己評価

A

(特記事項)

(評価の説明)

A ← B → C

順調概ね順調遅れている又は停滞している

(評価の理由)

・家庭系ごみ排出量は、2013年度比で500gから433gと－67g(－13.4%)減少しており、2025年度目標値450gを17g(3.4%)超えて達成した。

・フードドライブの実施店舗数・回収量は年々増加しており、2024年度の回収量実績は32トンにまで増加した。

・神戸市発祥の「てまえどり」協力店舗数も年々増加している。

・キエーロの出前トークを地域団体、各種学校、アーバンファームの方のべ1,014人に向けて実施した。

・キエーロによる「土づくり」を通じた環境教育を実施することで、キエーロは生ごみ減量のみならず、生ごみの資源循環にもなるという新たな視点を加えることができた。

安定処理に向けたごみ処理施設の効率化



取り組み概況

- ・神戸市は面積が広大かつ山間部も多いことから家庭から排出される燃えるごみを効率的に処理するためには市内にバランスよくごみ処理施設を配置し、ネットワークを構築することが重要である。
- ・神戸市には現在燃えるごみの処理施設として3つの焼却施設と3つの中継施設がある。中継施設とは、パッカー車で収集したごみを大型車両に積み替える施設である。
- ・中継施設は積み替え輸送により車両台数を減らし、CO2排出量を削減するとともに、焼却処理能力、発電能力に余裕がある焼却施設へ搬出することでより効率のよい焼却、発電が行える。
- ・焼却施設はごみの焼却を行うだけでなく、焼却時の熱を利用して発電を行うことでCO2の排出量削減に寄与している。
- ・特に2017年度より運転を開始した港島クリーンセンターは発電効率が高く、ごみ処理量当たりの発電電力量は全国トップクラスである。
- ・その他に大型・燃えないごみを処理する布施畑破碎選別施設と缶・びん・ペットボトルを処理する資源リサイクルセンターがある。



2024 年度の取り組み実績

①ごみ発電の効率化

- ・クリーンセンターの集約化を図ることで、ごみの焼却とごみ発電の効率化を進めた。

クリーンセンターの発電量

2016年度		2024年度	
東クリーンセンター	7,588 万kwh	東クリーンセンター	7,336 万kwh
旧港島クリーンセンター	1,268 万kwh	旧港島クリーンセンター	(解体済)
港島クリーンセンター(3か月試運転)	1,405 万kwh	港島クリーンセンター	10,031万kwh
苅藻島クリーンセンター	1,867 万kwh	苅藻島クリーンセンター	(中継地化)
西クリーンセンター	4,293 万kwh	西クリーンセンター	4,313万kwh
計	16,421 万kwh	計	21,680万kwh
		発電量の増加	5,259 万kwh

- ・施設の整備、運転管理の改善を行うことで、ごみ処理量当たりの発電電力量の改善を行った。

クリーンセンターのごみ処理量当たりの発電量

2016年度		2024年度	
東クリーンセンター	402 kwh/t	東クリーンセンター	473kwh/t
旧港島クリーンセンター	246 kwh/t	旧港島クリーンセンター	(解体済)
港島クリーンセンター(3か月試運転)	524 kwh/t	港島クリーンセンター	726kwh/t
苅藻島クリーンセンター	297 kwh/t	苅藻島クリーンセンター	(中継地化)
西クリーンセンター	357 kwh/t	西クリーンセンター	388kwh/t

・環境省より発表された資料によると港島クリーンセンターについては2023年度のごみ処理量当たりの発電電力量が国内の発電設備を有するごみ焼却施設(411施設)のうち、全国4位となった。

- ②クリーンセンターの啓発施設としての活用
- ・従来実施している小学校の社会見学や団体による一般見学に加え、夏休み家族見学会やこうべエコちゃれゼミをクリーンセンターで開催した。
- ・クリーンセンターは、ごみ処理に関する展示以外にも、生物多様性の啓発のためのビオトープの設置や、プラスチック問題に関する動画の展示など、環境局が取り扱う諸問題の啓発施設として利用されている。



ビオトープ(港島クリーンセンター)

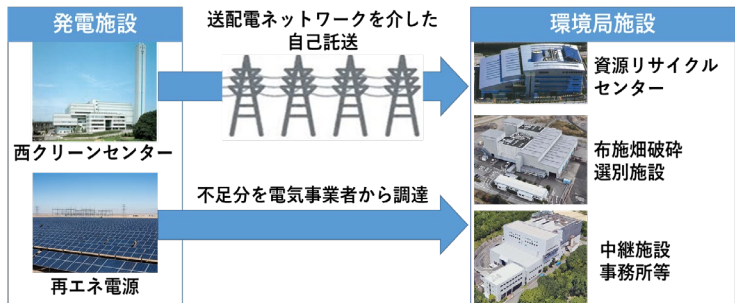


夏休み家族見学会の様子(東クリーンセンター)

- ③東クリーンセンター基幹的設備改良工事
- ・竣工から23年が経過し老朽化が進んでいた東クリーンセンターについて、2039年度(竣工から40年)までの供用を目指して2023年度より基幹的設備の改良工事を開始しており、2027年度までの実施予定。
- ・改良工事の実施において、省エネ機器の採用などにより消費電力の削減に取り組む。

- ④旧港島クリーンセンターの解体
- ・2016年度で焼却を停止した旧港島クリーンセンターについて、2021年12月より解体工事を開始し、2024年度に解体を完了。

- ⑤神戸市地域エネルギー電力供給事業
- ・2024年度から自己託送を利用した神戸市地域エネルギー電力供給事業を開始した(自己託送とは、発電設備を設置する者が、発電した電気を送配電事業者の送配電ネットワークを介して、自身の施設に送電することができる制度である)。
- ・この自己託送を利用して、西クリーンセンターで発電したCO2排出量ゼロの電力を神戸市環境局所管の施設に供給することで電力の地産地消を実現した。
- ・また自己託送で不足する電力を再エネ100%の電力で補うことで、ほぼ全ての環境局施設において電力使用によるCO2排出量ゼロを実現した。



- (参考)芦屋市との一般廃棄物処理施設の広域連携
- ・2023年9月に芦屋市から本市に対し協議の申し入れがあった
- ・神戸市のごみ焼却施設で芦屋市の可燃ごみを処理する広域処理について両市で検討を進めてきました。両市にとって実現可能かつ意義があることから、2025年3月25日に広域処理に向けた協議書を締結。



協定締結式

更なる推進に向けた課題

- ・施設の老朽化に伴う対策が必要。
- ・今後も必要に応じ、東クリーンセンター基幹的設備改良工事をはじめとする施設の長寿命化や、次期施設の建替等を適切に検討していく。

自己評価

A

(特記事項)

(評価の説明)

A

順調

B

概ね順調

C

遅れている又は停滞している

(評価の理由)

- ・計画的な整備、維持管理を行い、全体最適を図りながら安定的にごみを処理できた。
- ・発電効率を高める等の対策を行うことで環境負荷の低減を図ることができた。
- ・電力の地産地消を実現するとともに、ほぼ全ての環境局施設において電力使用によるCO2排出量ゼロを実現できた。

外来種に対する在来種の保護 市民と取り組む外来生物の防除作戦



取り組み概況

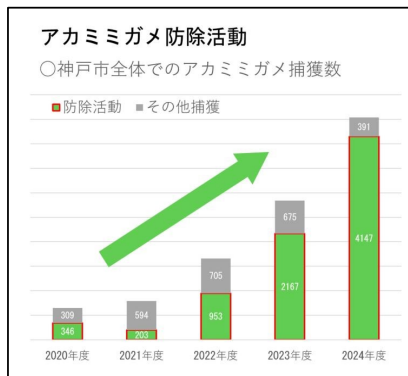
- ・外来生物が生物多様性の脅威となっていることを理解し、体験できる日本唯一の公的施設として、「感じる・知る・考える」をコンセプトに、**外来生物展示センター**を苅藻島クリーンセンター内に**2022年に開設**。市民等の見学を受け付けている。
- ・神戸市内でアカミミガメの防除を行った市民団体等に対して助成を行い、市民との協働による防除等に取り組んでいる。さらに、明石市、神戸市及び関係団体で構成される「明石・神戸アカミミガメ対策協議会」にて、市域をまたぐ明石川水系や瀬戸川水系の河川やため池を対象に防除を実施。
- ・特定外来生物であるツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウ、ヒアリ、アルゼンチンアリについて防除を実施。
- ・市民型の生物調査として、スマホを用いた調査「夏休み生きものクエスト～神戸で夏の生きものさがし～」を実施。

2024年度の取り組み実績

- ①外来生物展示センターにおける普及啓発
- ・外来生物展示センターでは生体展示に特化した「生物飼育棟」、体験型展示を多く揃える「展示ホール」があり、専門家による解説のもと、見たり・触れたり楽しみながら外来生物の問題について学ぶことが出来る。
 - ・土曜日と日曜日(12月～2月は閉館)に一般公開しており**1,578名**が来館した。また、**8月には外来生物を試食するイベントを実施し、148名**が来館した。
 - ・団体見学では、「**KOBE SDGs探求プログラム**」を通じたPRを実施しており、全国の中学・高等学校の見学も受け入れている。その結果、**児童館や学校、企業など34団体(887名)**が来館した。



- ②アカミミガメの防除
- ・神戸市自然環境保全活動補助事業のアカミミガメ防除活動では、市民活動団体等**17団体**に補助を行った。
 - ・2024年度より、さらに市民によるアカミミガメ防除活動を推進するため、捕獲数上位3団体に対して表彰し、副賞として最大10万円を交付制度を創設した。
 - ・明石・神戸アカミミガメ対策協議会では、比較的生息数が多いと推定される区間において引き続き誘引罠による防除を行い、ため池については日光浴罠による防除を実施。
 - ・また、外来生物問題について普及啓発するため、身近な外来生物であるアカミミガメを中心とした生き物講座を開催した。市内の小学校9校より募集があり、協議会で作成したマニュアルも配布した。
 - ・市民が個別に野外で捕獲したアカミミガメについても環境局で引き取りを実施した。
 - ・アカミミガメ防除に対する制度充実神戸市全体での2024年度アカミミガメ防除数:4,538匹



- ③特定外来生物の防除
- ・2021年7月に六甲アイランドで成虫の発生が確認されたツヤハダゴマダラカミキリについて、地元団体の協力を得て**六甲アイランド内にカミキリポストを設置、2024年6月-8月の間で計195匹を回収・防除した。**

- ・生物判定アプリ「Biome」を活用した市民参加型生物調査(後述)では、ツヤハダゴマダラカミキリ投稿(11件)から六甲アイランド外の生息箇所を発見し、対策につながった。
- ・被害木について調査を行い、被害の著しい**122本を2024年度に伐採・焼却等処分した。**



▲ツヤハダゴマダラカミキリ



▲六甲アイランド外の生息地を確認



▲クビアカツヤカミキリ

- ・2022年度に北区で初確認されたクビアカツヤカミキリについて、市民からの情報を収集し、神戸市、樹木医会、県受託業者の3者による被害状況の把握と対策を実施した。2024年度には成虫22匹を防除、152本の被害木を確認し、その内66本を伐採した。
- ・ナガエツルノゲイトウは、西区内のため池2か所と1河川で確認されており、有識者の技術指導の下、ため池・河川管理者や関連部局と協力し、遮光シート、浚渫、抜き取り等による防除を進めている。
- ・ヒアリ類について、内陸部、臨海部におけるモニタリング調査を実施した。
- ・アルゼンチンアリについて、市内で生息密度が高く、他地域へ分布拡大する恐れのあるエリアにおいて、防除・調査を年4回実施し、生息密度の減少を確認した。

- ④市民参加型の生物調査「夏休み生きものクエスト～神戸で夏の生きものさがし～」

- ・**市民参加型の生物調査を実施し、延べ428名が参加し、計876件の投稿**があった。

- ・「Biome」は、株式会社バイオームが開発・運営している無料のスマートフォンアプリで、生きものの写真を撮影することで、独自のAIが種を判定。生きものに詳しくない方でも気軽に生物を調べることができる。



▲バイオームのイメージ



▲外来生物の投稿状況

更なる推進に向けた課題

- 外来生物法の改正に伴う市民への普及啓発活動の推進
- 2023年6月1日の改正外来生物法の施行では、アカミミガメ・アメリカザリガニが条件付き特定外来生物に指定され、販売や野外への放出などが禁止された。飼育中の個体などが放出されないよう、HPやポスター等で啓発するとともに、**外来生物展示センターにおいて、見学者にアカミミガメ・アメリカザリガニを含む外来生物の生体やしく製等を直接見てもらうことにより、外来生物問題に関する正しい知識を身に付けてもらえるよう継続して努めている。**

- 市民との協働防除の推進
- さらなる外来生物の防除に向けて、各種外来生物問題についての普及啓発活動に力を入れるほか、補助金等の支援施策の拡充を検討していく。

- アカミミガメの引取
- 神戸市では野外個体については引取を行ってきたが、外来生物法の改正でアカミミガメが条件付き特定外来生物に指定された。これまで飼育されてきた個体が飼育困難になり、野外への遺棄等がないように、飼育し続けることが困難な場合において、飼育個体の引取を行っている。また現在引き取ったアカミミガメは、環境省のガイドラインに基づき、冷凍による殺処分としているが、今後は引き取り後のアカミミガメの有効活用方法も検討していく。

自己評価

A

(特記事項)

(評価の説明)

A

順調

B

概ね順調

C

遅れている又は停滞している

(評価の理由)

- ・外来生物展示センターにおいて、市民に対し、外来生物問題に関する正しい知識を身に付けてもらえるよう普及啓発した。
- ・アカミミガメの防除では市民との協働で17の市民活動団体への活動助成や協議会による日光浴罠設置の技術支援や小学校への出前授業を行うことで、市民の生物多様性への理解が進み、生物多様性保全活動への関心が高まった。その結果、市全体の捕獲数が2023年度の2,842匹から2024年度は4,538匹に増加した。
- ・ツヤハダゴマダラカミキリの防除では、カミキリポストを設置し市民の協力を得て継続的な防除を行った。その結果、195匹を回収・防除した。
- ・さらに、スマホの生物判定アプリを活用し、市民参加型の生物調査を実施し、各種生物の生息情報を集積した。

適切に管理されてきた二次的な自然環境の維持

土地所有者・活動団体・大学等の連携による希少植物オカオグルマ等の保全



取り組み概況

- ・神戸が目指すべき里山を実現するための方策を明らかにし、一人ひとりが里山の豊かな恵みを持続的に享受することを目的とした「KOBE里山生物多様性戦略」を推進している。
- ・戦略内では、**里山を知る、里山をまもる、里山の取組をつなぐ/ひろげる**の3つの観点に基づき、里山の生物多様性保全に関する施策を展開している。
- ※ 目指すべき里山：多種多様な動植物を育み、人と自然が共生する里山の価値が多くの人々に広く共有され、保全・管理・利用が継続的に行われることで、生物多様性がもたらす多様な恵みを持続的に享受できる里山

2024年度の取り組み実績

①KOBE里山生物多様性戦略の推進

- ・里山の保全に向けて目指すべき里山を明らかにし、市が取り組む関連事業を展開
- ・掲載事業を推進していくとともに、多様な主体の参画を促進



KOBE里山生物多様性戦略の詳細はこちら
https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/biodiversity/satoyama_sdgs.html

【里山とは】

- ・人々が農業を営む中で、田畑、水路やため池、小川、草原を管理し、また、森の木を木材や燃料として利用するなど、昔から持続可能な形で利用され、維持され、守られてきた自然。
- ・様々な環境がモザイク状に存在することから、それぞれの環境を好む様々な動植物が暮らす、生物多様性が豊かな場所になっている。



▲KOBE里山生物多様性戦略

戦略1. 里山を知る

○自然体験イベントの実施

- ・里地・里山の魅力の発信や地域の活性化を目指し、体験イベントを実施した（竹林整備、草刈り、農作物の収穫体験、生きもの観察等）
- ・2024年10月に企業を対象とした自然共生サイトの見学会を開催（主催：神戸市、協力：みなと銀行・損保ジャパン・（公財）ひょうご環境創造協会）
フォーラム：37社・団体、59名参加 見学会：27社・団体、40名参加
7割以上の参加者から高い満足度を得た
- ・2024年10月～11月に江崎グリコ㈱が社内研修で自然共生サイトでの保全活動を実施



▲自然体験イベント

戦略2. 里山をまもる

○多様な主体が連携した里山保全モデル事業の推進

<主体ごとの役割>

- 【神戸市】市有林における輪伐、市民団体への支援等
- 【大学】有識者による生物調査、生態系サービスの評価
- 【市民団体】民有地における農作業、棚田景観の管理、生物調査等

- ・2023年10月、**山田町の里山・棚田・ため池等からなるエリアが、生物多様性豊かな区域として環境省の「自然共生サイト※1」の第1弾認定を受け、国連の「OECM※2」データベースにも登録された。**

- ※1：市民、企業、団体、自治体等によって生物多様性が保全されている区域を環境省が認定する仕組み。
- ※2：保護地域（国立公園等）以外の生物多様性保全に貢献する地域のこと。
30by30目標（2030年までに陸域・水域の面積のそれぞれ30%以上の保全を目指す目標）の対象
- ・森林資源の循環利用を目指し、北区山田町の小河山林の木を原料として、備長炭の試行製造を行った。
- ・その他、複数の企業等の視察を受け入れた。



▲自然共生サイトパンフレット

<自然共生サイトの対象地で確認された希少種の例>

オカオグルマ（「神戸版レッドデータ2020」Bランク）
セトウチサンショウウオ（同Bランク）
ベニイトトンボ（同Aランク）



▲オカオグルマ



▲セトウチオオサンショウウオ



▲ベニイトトンボ



▲発信機をつけたイシガメ



▲市民団体による生物多様性保全活動

○あいな里山公園でのイシガメの生態調査・研究

- ・里山のシンボルとも言えるイシガメの保全に向けて、生態の把握を図るため、個体の移動距離や食性、**放流したイシガメの定着度合の調査**を引き続き行った。
- ・また外敵による被害の低減を目指すため、上記調査と並行して、**センサーカメラ等を用いてアライグマ等の侵入状況**を調査した。
- ・公園内にイシガメの保全地区を設置し、外的要因による影響を低減させ個体数増加に寄与するため、電気柵等による保全区画の設置をおこない、生息状況の調査を実施した。

戦略3. 里山の取組をつなぐ/ひろげる

市民団体の活動を促進するため、各部局が連携しながら支援を行った。

○KOBE里山SDGs活動支援補助金

神戸農政公社では、里山・農村におけるSDGsに資する活動に補助（一般枠5件、特別枠14件）を行った。
補助活動例）『耕作困難農地の保全管理（活用できる農地復元）作業』

○自然環境保全活動補助事業

環境局では、自然環境保全に関する普及啓発や活動の促進を図るため、「**生物多様性保全活動**」（8団体）や「**アカミミガメ防除活動**」（17団体）、「**水辺清掃活動**」（5団体）を行う団体に対し、補助金による支援を行った。

更なる推進に向けた課題

○生物多様性の保全の担い手の確保

- ・保全の担い手は高齢者が中心であり、**後継者の育成が必要**となる。
- ・**知識や経験等がない人や団体であっても取り組むきっかけ**となる、さらなる支援が必要である。
- ・**産学官民の連携をさらに強化**していく必要がある。特に**企業参画による人的・資金的援助**が必要である。

○活動内容の公表と情報の非公開のバランス

- ・**新たな活動参加者を募るためには、里地・里山の魅力や活動状況等の広報が必要**である。
- ・一方で**希少種情報の取り扱いには注意が必要**、むやみな情報公開は慎重に判断する必要がある。

○里山資源の持続的な利活用の促進

- ・木材利用や体験の場としての活用など、**里山資源の利活用により、里山の維持・管理を持続的なものとする。**

自己評価

A

(特記事項)

(評価の説明)

A

順調

B

概ね順調

C

遅れている又は
停滞している

(評価の理由)

- ・「KOBE里山生物多様性戦略」を推進し、里山の生物多様性保全に寄与する施策を展開した。
- ・市有林やその周辺棚田にて、モデル的な整備を推進した。
- ・**北区山田町の里山・棚田・ため池等からなるエリアが、自然共生サイト第1弾に認定**されるとともに、ミライ新聞事業や視察等を通じて、里山の維持・管理や里地保全に大切さを発信するとともに、参画の呼びかけを行った。
- ・**地元住民、市民団体、大学等の連携により、継続的に動植物の生息・生育調査や保全活動を実施した。**
- ・複数の活動団体に対し、**補助金による支援**を行った。

光化学オキシダント、微小粒子状物質(PM2.5)への対策



取り組み概況

- ・(目標)光化学オキシダント及びPM2.5濃度の低減及び環境基準の達成
- ・2024年度進捗状況
光化学オキシダントは測定した全ての測定局(12局)で環境基準非達成。濃度は横ばいの状況が続いている。
PM2.5は測定した全ての測定局(17局)で環境基準達成。濃度は2012年度より緩やかな減少傾向にある。

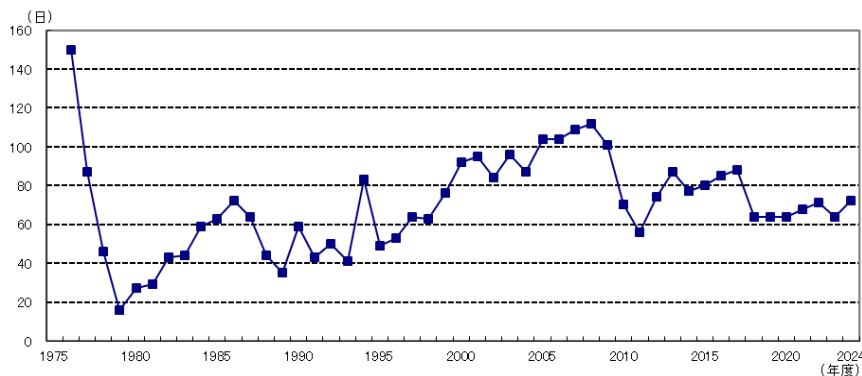
2024年度の取り組み実績

○取り組み実績

名 称	実 状 況
環境常時監視システムの運用	光化学オキシダントの常時監視:12測定局 PM2.5の常時監視:17測定局
ばい煙発生施設の監視、指導	大規模工場における発生源常時監視:6工場 ばい煙発生施設への監視:46事業場 (主に排ガス量1万m ³ 以上の大規模事業場)
環境保全協定の締結	自主的に法規制を上回る大気汚染防止対策を実施
クリーンエネルギー自動車の導入助成	電気自動車43台、燃料電池自動車4台、計47台
次世代自動車・エコドライブ等の普及啓発	出前トーク・展示等:2回 災害等による停電時に電動車のバッテリーに蓄電された電気を・設内の配線より供給し照明等に使用する「外部給電・神戸モデル」を通じた普及啓発
広域的な連携	自動車NOx・PM法に基づく車種規制(国実施) 幹線道路における流入規制(県実施)
光化学スモッグ広報等に係る連絡体制	庁内・庁外への連絡体制の整備と維持 光化学スモッグ監視強化月間における連絡・受信体制の確保

○経年変化

①光化学オキシダント:昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数の経年変化

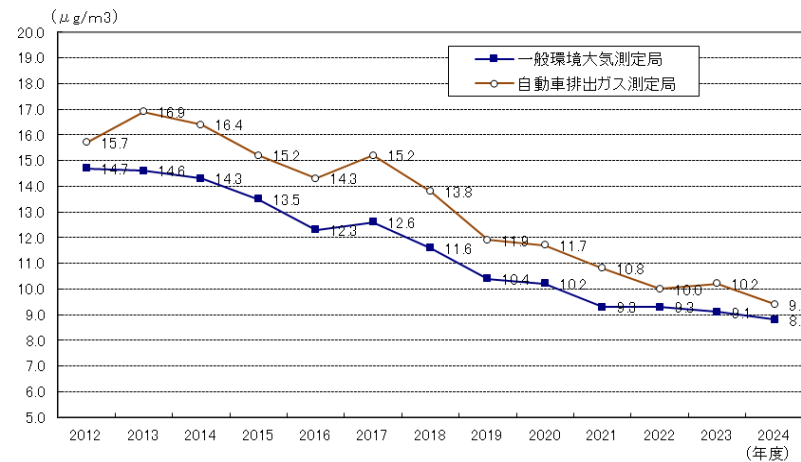


・光化学オキシダントは全国的にも環境基準の達成率が極めて低く、本市においても2024年度は、測定した全局(12局)で非達成であった。(全国:2023年度1,168局中1局のみが達成)

また、2024年度は光化学スモッグ広報の予報・注意報の発令はなく、被害者が発生することはなかった。なお、2002年度に被害者が発生して以降、市内における光化学スモッグによる被害者の発生はない。

- * 光化学オキシダント環境基準
1時間値が0.06ppm以下であること
- * 光化学スモッグ広報発令基準
予 報:オキシダント濃度が、気象条件等から注意報の発令基準に達するおそれがあると判断されるとき。
注意報:オキシダント濃度の1時間平均値が、0.12ppm以上となり、気象条件等から見て、その濃度が継続すると認められるとき。

②PM2.5年平均値の経年変化



・PM2.5の濃度は減少傾向で推移しており、2024年度は測定した全ての測定局(17局)で環境基準を達成した。なお、一定濃度を超えると発令される注意喚起情報は神戸・阪神エリアでは発令されたことはない。

- * PM2.5環境基準
年平均値が15μg/m3以下であり、かつ日平均値が35μg/m3以下であること。
- * PM2.5の注意喚起の発令基準(兵庫県)
神戸市を含む「神戸・阪神エリア」のPM2.5の日平均値が70μg/m3 を超える恐れがある場合などに、兵庫県から注意喚起が発令される。

更なる推進に向けた課題

○光化学オキシダントの環境基準達成状況

- ・前駆物質である窒素酸化物や非メタン炭化水素等の濃度は低下傾向にあるものの、依然として環境基準の達成率が低く、全国でも同様の傾向である(全国:2023年度1,168局中1局達成)。このため、国において光化学オキシダント濃度に影響を与えると推測される要因の解析などの取組が進められている。
- ・光化学オキシダント注意報等の発令時には、事業者への操業自粛等の協力要請や関係部局と連携して、市民への注意情報の発信等を行っていく。

○PM2.5の発生源解明

- ・当項目は大陸からの越境汚染と都市汚染の複合汚染であり、汚染の影響の程度は地域や季節によって異なるとされ、国においてシミュレーションモデルの高度化、発生源情報の整備、二次生成機構の解明等の取り組みが進められている。今後とも、成分分析調査等を継続して実施するなど、国に協力していく。
- 次世代自動車の普及
- ・従来車と比べ、排気ガスがより少ないクリーンエネルギー自動車の普及が、光化学オキシダントやPM2.5濃度削減対策に、併せてCO₂削減対策つなげることを関係部局と連携し、市民・事業者にPRしていく。
- ・特に国において、2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指し、今まで以上に自動車の電動化、急速充電器の設置などの取り組みが進められようとしているところであり、その動向を注視して施策を進めていく。

自己評価

B

(特記事項)

(評価の説明)

A ← B → C
順調 概ね順調 遅れている又は停滞している

(評価の理由)

- ・光化学オキシダントは、全局で環境基準非達成の状況が続いており、全国でも同様の傾向にある。
- ・このような状況の下、PM2.5及び光化学オキシダントの常時監視を継続するとともに、光化学オキシダント濃度が高くなる期間(光化学スモッグ特別監視期間。2024年4月22日(月)～2024年10月18日(金))の前に、市内の排出ガス量が1時間あたり1万m³N以上の工場・事業場に対し、緊急時における窒素酸化物の削減計画書の作成、連絡先の報告等を求めた。あわせて、PM2.5の成分分析、光化学オキシダントの生成防止のための必要条件となる非メタン炭化水素の濃度把握などを行っている。
- ・今後も国の動向を注視し、発生源・メカニズムの解明に努めるとともに、光化学オキシダント注意報等の発令時には、事業者への操業自粛等の協力要請や関係部局と連携して、市民への注意情報の発信等を行っていく。
- ・クリーンエネルギー自動車の普及促進に向けて、新たに電動車が有する蓄電機能を活用した「外部給電・神戸モデル」を関係部局と連携して取組む。

令和 7 年 7 月～10 月 環境局記者提供資料（抜粋）

	表題	ページ
1	株式会社四国の右下木の会社との事業連携協定の締結（7月8日）	1
2	リサイクルを楽しく学ぶワークショップ「廃材 de 紙すき～オリジナルカードを作ろう！～」を開催します（7月11日）	3
3	外来生物展示センターに「昆虫室」が遂にオープン！～身近な虫たちの知られざる世界へようこそ！オープニングイベント開催～（7月22日）	10
4	2025 年度（令和 7 年度）「水道筋商店街界隈の食品ロスゼロ実証事業」水道筋十日えびす祭エコラリーを開催します！（8月7日）	13
5	小学生向け環境学習講座「西クリーンセンター見学×こうべの木でコースター作り」の開催（8月26日）	19
6	サッカー観戦をきっかけに「エコノバ」を利用しよう！「デコ活アクション IN KOBE」キャンペーンがスタート！！（9月12日）	22
7	～10 月は食品ロス削減月間～様々な取り組みで食品ロスを減らそう！（9月18日）	30
8	「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」を構築～脱炭素投資を金融面から支援します～（9月30日）	33
9	プラスチック一括回収の方策に関するサウンディング型市場調査の実施（10月8日）	39
10	里地里山の活動拠点「KOBE 里山自然共生センター」がオープン～30by30 の実現に向けて～（10月8日）	40
11	～環境省「令和 7 年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」～ローソン店舗でリチウムイオン電池の回収実証・資源ぐるりマップの公開（10月14日）	43
12	【兵庫県初出店】不用品を地域で譲り合うリユース拠点「ジモティースポット神戸ジェームス山」の開設（10月17日）	50

記者資料提供（2025 年 7 月 8 日）

神戸市環境局自然環境課 岡田・矢野

TEL：078-595-6216 FAX：078-595-6254

株式会社四国の右下木の会社との事業連携協定の締結

神戸市と株式会社四国の右下木の会社は、相互に連携・協力し、森林管理及び森林資源の活用、都市部における樹木の管理及び活用などにより、循環型森林資源の利用について、連携して取組みを推進することを目的に、事業連携協定の締結式を行いました。

1. 協定締結日

2025 年 7 月 7 日（月）

2. 協定締結先

株式会社四国の右下木の会社

代表取締役 吉田基晴



写真左から吉田代表取締役、黒田副市長

3. 協定内容

- (1) 森林資源の管理及び循環的活用に関すること
 - ア. 里山等の森林資源の管理・活用に関すること
 - イ. 都市部（公園・街路樹等）における樹木資源の活用に関すること
- (2) 森林資源を活用した新たな里山経済モデル・地域づくりモデルの検討に関すること
- (3) 広葉樹林の機能の炭素吸収や生物多様性の評価方法に関すること
- (4) 前3号にかかる知見・技術の共有、人材育成及び広報に関すること
- (5) その他、本協定の目的を実現するために必要なこと

4. 具体的な取り組み

- ・市職員や里山で森林管理に携わるボランティアなどの作業者に、樵木林業の伐採方法や森林管理の技術的な支援や研修等を行う。
- ・市内産食材を市内産木材の薪や炭で調理する「食」と「エネルギー」の地産地消に関するモデル構築を行い、地域産業の活性化を目指す。
- ・広葉樹林に生息する植物や昆虫などの生物多様性や、樹木の成長による炭素吸収・固定効果の検証を行う。
- ・環境教育や食育イベント・里山ワークショップ等を通じて、神戸の森林やその恵みなどが身近なものであることを感じてもらい、環境について考える機会をつくる。

5. 参考 樵木（こりき）林業について

樵木（こりき）林業とは？

樵木林業は、徳島県南部で室町・江戸期から続く照葉樹薪炭林の循環型林業。ウバメガシやカシなどを択伐（たくばつ）し、萌芽力を活かして15～20年周期で森を更新する「択伐矮林更新法（たくばつわいりんこうしんほう）」を核とし、かつて京阪神の都市エネルギーを支えました。その伝統的で、生産性と環境保全性の高さなどが評価され、2018年に日本森林学会「林業遺産」、2025年に日本農業遺産へ認定されています。

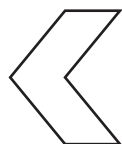
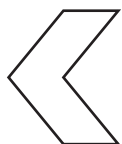
萌芽更新



択伐&萌芽更新



択伐&萌芽更新



樵木伐採を繰り返し多幹化したウバメガシ



旺盛な萌芽を見せるウバメガシ

記者提供資料（2025 年 7 月 11 日）

環境局環境企画課 柴田・後藤

TEL：078-595-6093（内線：955-3542）

E-mail：kankyokeihatsu@city.kobe.lg.jp

リサイクルを楽しく学ぶワークショップ

「廃材 de 紙すき～オリジナルカードを作ろう！～」を開催します

工場で発生する、やむを得ずロスとなったお酒の紙パックをリサイクルし、紙すきでオリジナルカードを作るワークショップを開催します。大人も子どもも一緒に、身近な資源のリサイクルを体験しながら、世界に 1 枚だけのカードを作ってみましょう！



1. 開催日時

2025 年 8 月 23 日（土曜）14 時 00 分～16 時 00 分

2. 会場・アクセス

会場：ふれあいひろば「コレルせいぶん」ホール
（コープこうべ生活文化センター 2 階）

住所：〒658-0081 神戸市東灘区田中町 5 丁目 3-18

アクセス：JR「住吉駅」より東へ徒歩 8 分

※会場に駐車場はございません。公共交通機関での来場、または近隣有料駐車場の利用をお願いいたします。



3. プログラム

- ・講師のお話（酒パックが、障害を持つ人たちの手を経て、手すきの紙にリサイクルされる取り組みを紹介）
- ・紙すき体験
- ・ワークショップの振り返り

4. 講師

- ・船橋 知恵さん（社会福祉法人木の芽福祉会 御影倶楽部※）

※様々な障害を持つ方を支援する、神戸市東灘区にある障害福祉事業所。

2024 年度 神戸 SDGs 表彰にて、『福祉就労として、「白鶴酒造」の酒パックの工場損紙を再生し、手すきの紙にする事業を行い、環境課題と福祉的就労の双方にアプローチした事業を実現している。』ことが評価され、神戸 SDGs 功労賞を受賞。



- ・松田 陽菜多さん（神戸芸術工科大学 学生）
- ・中村 征士さん（絵を描かないアートスクール＝コイナー 代表）

5. 対象・定員

神戸市内在住・在学・在勤の小学生～大人 60 名（要事前申込・抽選）

※中学生以下は保護者の同伴が必要です。

6. 参加費

無料

7. 申込方法

神戸市公式イベントサイト「おでかけ KOBE」より、申込フォームにてお申し込みください。

URL : <https://event.city.kobe.lg.jp/event/jSv3qyCcmedTLiuXVwvL>

二次元コード：右図のとおり

受付期間：7月11日（金曜）10時00分～8月14日（木曜）23時59分

※8月20日（水曜）17時00分までに、メールにて抽選結果をお知らせいたします。



8. 申込等に関するお問い合わせ先

株式会社ベイエリア

メール：event_jimu@bayarea.jp

電話：078-265-6080（受付時間 平日 10時00分～17時00分）

FAX：078-261-2361

9. 主催・協力

主催：神戸市

協力：白鶴酒造株式会社

10. 関連資料

- ・イベントチラシ
- ・社会福祉法人木の芽福祉会 御影倶楽部 記者提供資料

リサイクルを楽しく学ぶワークショップ

参加費
無料

廃材 de 紙すき

～ オリジナルカードを作ろう！～

工場で発生する、やむを得ずロスとなったお酒の紙パックをリサイクルし、紙すきでオリジナルカードを作るワークショップを開催します。

大人も子どもと一緒に、身近な資源のリサイクルを体験しながら、世界に1枚だけのカードを作ってみましょう！

親子での参加のほか、大人の方のみの参加也大歓迎です。

2025年 **8月23日(土)**

時 間 14:00～16:00

場 所

ふれあいひろば「コレルせいぶん」ホール
(コープこうべ生活文化センター2階)

定 員

60名(要事前申込・抽選)

参加費

無料

募集期間

25.7/11金 10:00 → 8/14木 23:59



申込方法：神戸市公式イベントサイト「おでかけKOBE」より、申込フォームにてお申し込みください。

<https://event.city.kobe.lg.jp/event/jSv3qyCcmedTLiuXVwvL>

抽選結果については、当選・落選ともに8月20日(水曜)17時までに、申し込み時に記入いただいたメール宛てにお知らせいたします。



住所：神戸市東灘区田中町5丁目3-18
／JR「住吉駅」より東へ徒歩8分



講 師

- ・船橋 知恵さん (社会福祉法人木の芽福祉会 御影倶楽部※)
※様々な障害を持つ方を支援する、神戸市東灘区にある障害福祉事業所。
2024年度神戸SDGs表彰にて、『福祉就労として、「白鶴酒造」の酒パックの工場損紙を再生し、手すきの紙にする事業を行い、環境課題と福祉的就労の双方にアプローチした事業を実現している。』ことが評価され、神戸SDGs功労賞を受賞。
- ・松田 陽菜多さん (神戸芸術工科大学 学生)
- ・中村 征士さん (絵を描かないアートスクール=コイネー 代表)



主 催

神戸市環境局

KOBE
CITY of DESIGN

協 力

白鶴酒造株式会社

お問合せ・企画・運営

株式会社 ベイエリア

mail: event_jimu@bayarea.jp

TEL: 078-265-6080

FAX: 078-261-2361

平日のみ 10:00～17:00

大学生が 3D プリンタで作った紙漉き枠<piipop> !

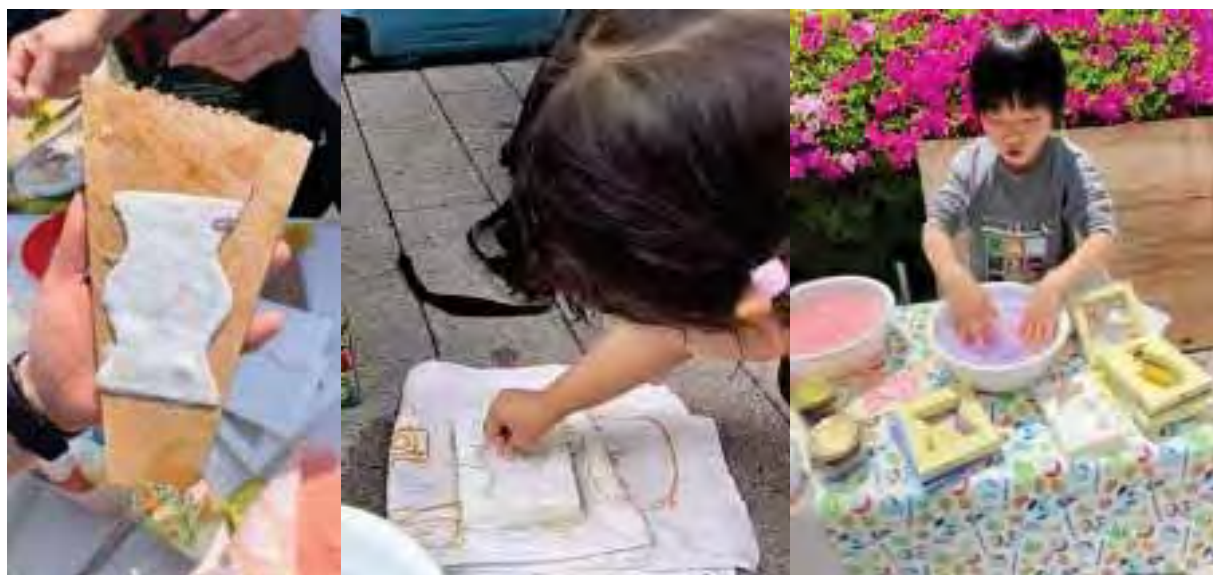
障害福祉と神戸芸術工科大学生の SDG s 啓発

「廃材 de 紙すき～オリジナルカードを作ろう！～」ワークショップ

8 月 23 日開催

障害福祉事業所 御影倶楽部（木の芽福祉会）は、神戸市環境局の委託を受け、2025 年 8 月 23 日（土）に、「廃材 de 紙すき」ワークショップを【ふれあいひろば「コレルせいぶん」ホール（コープこうべ生活文化センター2 階）】※1 にて開催します。

神戸芸術工科大学の学生と 3D プリンタで製作した紙漉き枠で、今までにないカタチを作ります。



廃材を活用してポップなカードを作ることができるワークショップ

「廃材 de 紙すき」は、幅広い世代を対象に、環境にやさしい行動につながるきっかけとなることを目的としたワークショップイベントです。

事業所「御影倶楽部」では、白鶴酒造の工場から発生する酒パックの工場損紙の一部を譲り受け、障害を持つ利用者が手作業で紙漉きをし、商品化する事業を 10 年以上続けています。

2025 年の初めから、御影倶楽部は神戸芸術工科大学に在学中の松田陽菜多さんとともに、オリジナルの紙漉きツールを企画・製作し始めました。どんな方もリサイクルとものづくりを楽しめるよう、簡単に扱うことのできる道具を開発しています。



白鶴酒造の酒パック

松田さんが学ぶ3Dプリンタでのプロダクト製作とコラボレーションし、「piipop」というブランド名を冠しています。

この取り組みに、立体紙漉きに挑戦中のアーティスト マスダマキコさん・絵を描かないアートスクール=コイネー※2 代表の中村征士さんが賛同し、「チーム piipop」が出来上がり、月1回のペースでワークショップと実験を重ねています。今回、神戸市環境局から環境学習講座の実施を依頼され、本ワークショップを企画しました。



3Dプリンタで作った piipop 枠

【開催概要】

イベント名称 : 「廃材 de 紙すき～オリジナルカードを作ろう!～」

日 時 : 2025年8月23日土曜日 14:00～16:00

(13:40～受付開始)

開催場所 : ふれあいひろば「コレルせいぶん」ホール(コープこうべ生活文化センター2階)

住 所 : 神戸市東灘区田中町5丁目3-18

アクセス : JR 住吉駅より徒歩8分

URL : <https://kumikatsu.kobe.coop/tsudoiba/seibun/>

参加費 : 無料(要予約)

ご用意いただくもの:

- ① ビニール袋(濡れた手すき紙お持ち帰り用)
- ② ご自身で紙に混ぜたい材料(ドライフラワー、押し花、糸など)※会場でもご用意しています。

※水やパルプが跳ねることがありますので、汚れても大丈夫な服装でお越しください。

ご注意 : 荒天で中止になる場合があります。

会場には駐車場はありません。当日は公共交通機関でのお越しをお勧めします。

申込方法

神戸市公式イベントサイト「おでかけ KOBE」より、申込フォームにてお申し込みください。

URL : <https://event.city.kobe.lg.jp/event/jSv3qyCcmедTLiuXVwvL>

二次元コード: 右図のとおり



受付期間: 7月11日(金曜) 10:00～8月14日(木曜) 23:59

※8月20日(水曜) 17:00 までに、メールにて抽選結果をお知らせいたします。

座学とワークショップで楽しく知るリサイクル

当日のタイムテーブル

14:00～14:20〈御影倶楽部の自己紹介〉

動画を見ながら御影倶楽部の普段の仕事を説明します。白鶴酒造から受け取る酒パックが、障害を持つ人たちの手を経て、手すきの紙に生まれ変わる様子をご覧ください。

この日おこなう「piipop 紙漉きワークショップ」の動画も流します。



普段の紙漉きの様子。酒パックからラミネートフィルムをはがし、原料にします。



piipop 紙漉きワークショップ。子どもや障害を持つ人も直感的に紙を作ることができるキット。

14 : 30～15 : 10 〈紙漉き体験〉

6 名くらいの小グループでワークショップをおこないます。piipop 枠とメッシュの網を用意しています。どちらの道具を使って紙漉きをしてでも OK です。合計 4 枚の紙を漉いていただく予定です。

花や糸、合成ゴムや色鉛筆の削りくずなどの廃材を入れ込み、あなただけの紙を漉いてみてください。(混ぜたいものを持ってきていただいても構いません！)

家で再現できるようにレクチャーしますので、自由研究にぴったりです。

15 : 10～15 : 30 〈休憩&ふりかえりノート〉

ワークシートに、手順と感想をまとめます。周りの人と感想をシェアしても OK ! 「チーム piipop」がお手伝いしますので、一緒に「明日のクリエイティブ」につながるワークシートを作りましょう！

15 : 30～15 : 55 〈感想シェア会〉

参加されたみなさんでできた紙を見せあいっこ！次にどんな廃材をリサイクルできそうかのアイデアも出してみます。

最後に記念写真を撮影し、終了します。



当日は御影倶楽部作成の手すき紙を手にとっていただけます。

※1 ふれあいひろば「コレルせいぶん」について

<『コレルせいぶん』はコープが運営するレンタルルームです。

“学んで、伝えて、つながって”みんなが来れる・・・場所として、地域の活動を応援します！>

地域の活動や交流をサポートする拠点(貸室)で、コープこうべが運営しています。得意なことを生かして学び合ったり、活動の仲間と趣味を共有したり、幅広い用途で活用できます。

「学びと交流のプラットフォーム」をコンセプトに「人と人」「人と活動」「活動と活動」をつなぎます。登録者同士でつながることもできます。(HPより引用)



※2 絵を描かないアートスクール=コイナーについて

コイナーは神戸市の阪急六甲駅近くにある絵を描かないアートスクールです。アートを通じて子どもたちの想像力と創造力を掘り起こすような取り組みを続けています。「チーム piipop」では、アートのプロとしての相談役を担っています。

URL : <https://koine.jp/>

社会福祉法人木の芽福祉会 御影倶楽部について

■会社概要

商号 : 社会福祉法人木の芽福祉会

代表者 : 理事長 矢口雅也

所在地 : 〒658-0046 神戸市東灘区御影本町3丁目9-8

設立 : 2003年2月

URL : <http://www.kinomefukushikai.com/>

様々な障害をお持ちの方を支援する、神戸市東灘区にある障害福祉事業です。その人らしく輝ける場所を最も大切に考えた支援を続けています。

【本件に関するお問い合わせ先】

社会福祉法人木の芽福祉会 御影倶楽部

TEL : 078-843-0567 担当 : 船橋(ふなはし)

Email : funahashi@kinomefukushikai.com

記者提供資料（2025 年 7 月 22 日）

神戸市環境局自然環境課 岡田・三島

TEL：078-595-6216 FAX：078-595-6254

E-mail：biodiversity@city.kobe.lg.jp

外来生物展示センターに「昆虫室」が遂にオープン！ ～身近な虫たちの知られざる世界へようこそ！オープニングイベント開催～

神戸市では、豊かな生物多様性の脅威となる、外来生物問題の普及啓発に特化した日本で唯一の公的施設として 2022 年 8 月に外来生物展示センターをオープンしました。この度、外来生物展示センターに「昆虫室」を新たにオープンします！

当センターでは、オオクチバス（ブラックバス）やアメリカザリガニ、オオサンショウウオ（交雑種）など約 30 種、600 匹以上の外来生物を飼育し、飼育が禁止されている特定外来生物などを間近で見ることができます。

今回、2024 年 6 月に本市と包括連携協定を締結したアース製薬株式会社（以下、アース製薬）の全面協力のもと、クビアカツヤカミキリやセアカゴケグモなどの外来昆虫、また、体長 7 cm にもなるマダガスカルゴキブリや、近年被害が急増しているトコジラミ（南京虫）などの衛生昆虫の生体・標本を展示する「昆虫室」が誕生します。

昆虫室には、生体・標本に加え、身の回りに潜むこれらの昆虫などを探しながら学べる、体験型展示も設置します。

昆虫室のオープンを記念し、アース製薬と連携した特別なオープニングイベントを開催します。この夏、ぜひ外来生物展示センターで、驚きと発見に満ちた虫たちの新世界を体験してください。

1. 日時、募集人数等

（１）日 時：2025 年 8 月 24 日（日）

第 1 部 11：00～13：00

第 2 部 14：00～16：00

（２）料 金：無料

（３）募集人数：各部 90 名（先着順 事前申し込みが必要）

2. 場所

外来生物展示センター

（神戸市長田区苅藻島町 3-12-28 苅藻島クリーンセンター内）

3. イベント内容

(1) アース製薬研究員による特別セミナー「身近な害虫の知られざる生態と対策」

トコジラミやゴキブリなど、日常生活で遭遇する衛生昆虫の驚くべき生態や、最新の予防・駆除方法について、分かりやすく講義します。普段は聞けないプロの裏話も満載です。

(2) 「昆虫室」お披露目&解説付き特別見学会

展示の目玉となる多様なゴキブリや、外来昆虫、衛生昆虫の生体や標本について、また、身の回りに潜む昆虫を探す体験型施設においても、アース製薬研究員等が特別解説を行います。ここでしか聞けない貴重な解説で、昆虫の奥深さに迫ります。

(3) 展示ホール&生物飼育棟「外来生物問題について学ぶ見学ツアー」

既設の展示ホールや生物飼育棟の見学ツアーも開催します。専門スタッフの解説ツアーに参加し、外来生物問題について考えてみましょう。日本在来の生物を脅かす特定外来生物（オオクチバス、アメリカザリガニなど）について、専門スタッフの解説付きで見学。生物多様性保全の重要性を肌で感じる機会です。

4. 申し込み期間

2025 年 8 月 8 日（金）00:00 ～ 8 月 22 日（金）12:00

5. 申し込み方法

下記の URL より予約をお願いします。

<https://www.kobegairai.com/>



6. 昆虫室の概要

①ゴキブリたちの多様性

家屋に発生するクロゴキブリはもちろん、森林に生息し土壌分解の役割を担う日本在来のサツマゴキブリ、さらにマダガスカル島原産で体長が 7cm にもなる森林性昆虫「マダガスカルゴキブリ」など、ゴキブリの常識を覆す多種多様なゴキブリの生体を展示します。

② 外来昆虫の脅威

有毒で噛まれる被害が危惧される「セアカゴケグモ」の生体や、生態系に甚大な影響を及ぼす「ヒアリ」の標本、サクラ等への被害が問題となっている「クビアカツヤカミキリ」の標本などを展示。外来生物問題の深刻さと、私たちにできる対策を啓発します。

③ 衛生昆虫の真実

近年、海外旅行者の増加等により被害が急増している「トコジラミ（南京虫）」や「マ

ダニ」などの標本を展示。これらの衛生昆虫が引き起こす健康被害と、身を守るための実践的な対処方法を学ぶことができます。

④ 体験型展示「探してみよう！むしむしハンティング」

皆さんの身近な家屋の中や家のまわりに潜む外来昆虫や衛生昆虫などを探しながら学ぶ、参加型の体験展示を設置します。



(昆虫室完成イメージ)



(トコジラミ、別名：南京虫)



(体験型展示イメージ)

2025 年度（令和 7 年度）「水道筋商店街界隈の食品ロスゼロ実証事業」 水道筋十日えびす祭エコラリーを開催します！

環境省「食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業」として、「水道筋商店街界隈の食品ロスゼロ実証事業」が採択されました。

このたび食品ロス削減の取り組みとして、“もったいない”を遊びに変える水道筋十日えびす祭エコラリーを開催します。

1. 開催概要

- （１）名称：水道筋十日えびす祭エコラリー
- （２）日時：2025 年 8 月 10 日（日曜）10 時 00 分から 16 時 00 分まで
- （３）イベント開催地：水道筋商店街周辺（神戸市灘区水道筋）
- （４）その他：参加費無料、事前申込不要

2. プログラム

- ① 食品ロスクイズ&パネル
- ② 野菜で染色ワークショップ
- ③ 食品ロス削減 POP づくり
- ④ コーヒーで脱臭パックづくり

3. 関連資料

- ・イベントチラシ

4. 水道筋商店街界隈の食品ロスゼロ実証事業とは

水道筋商店街周辺地域において、食品廃棄をゼロにすることを目指し、以下の取り組みを行います。

- ・ 中小規模飲食店から発生する食品廃棄物の実態把握
- ・ 食べきり運動などによる食品ロス削減の推進
- ・ 防災空き地などを活用したコンポスト化※によるリサイクル
- ・ 地域住民の家庭からの食品廃棄物に関する実態調査と削減キャンペーンの実施

これらの取り組みの効果を検証し、神戸市の他地域への展開方法を検討していきます。

※コンポスト化とは、生ごみや落ち葉などの有機物を微生物の力で分解し、堆肥を作ること

(参考) 環境省 HP

[令和6年度補正予算 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等の採択結果について](#)

8月10日(日) 朝10時から夕方4時まで

水道筋十日えびす祭 エコラリー

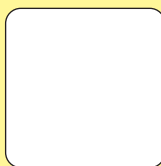
参加は
無料



夏休みの自由研究にオススメ! “もったいない”を遊びに変えよう!

① 食品ロスクイズ&パネル

捨てがちな野菜の皮も工夫しだいで活用できます!
パネルでフードロスの豆知識や家庭でできる対策を紹介。
クイズもあるので、ぜひ挑戦してみてください!



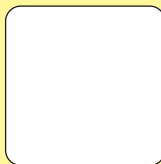
③ 食品ロス削減POPづくり

「てまえどり」とは、手前の商品から選ぶエコな買い物方法!
POPを手作りして、食品ロスを減らすメッセージを
一緒に広めましょう!



② 野菜で染色ワークショップ

余った野菜の皮で、巾着袋を染めてみよう!どんな色に
なるかは楽しみ!親子で気軽に楽しめる
ワークショップです。完成品は持ち帰りOK!



④ コーヒーで脱臭パックづくり

使い終わったコーヒーで、香りも楽しめる消臭剤が
作れます!冷蔵庫や靴箱にぴったり。
5分ほどでできる簡単エコ体験です!



食べて、育てて、また実る。ぐるぐる水道筋サイクル。

小売り、飲食店

食品廃棄物 削減キャンペーン

ゴミの分別や計測など、お店で
できる工夫にチャレンジ。

住民のみなさん

食品ロス削減

食品ロスダイアリーで記録にチャレ
ンジ。食べ残しを減らす工夫をし
たり、食品ロスを学ぶイベントに参加。

ロス食材の活用

食品廃棄物の資源循環

生ごみはコンポストにしたい肥
に。食べ物のゴミはメタンガスとし
てエネルギーになるよ。

いちばたけ

農産物生産

みんなで作ったたい肥でオーガ
ニックの野菜を育てよう。最後は
みんなでいただきます。

【主催】神戸市 【共催】神戸大学、株式会社玉子公園、NPO法人わくわく西灘、NPO法人ごみじゃぱん、いちばたけ

※本事業は環境省「令和6年度補正予算 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等」に採択され実施されています

おうちで
できる！

食品ロスを減らすアイデア



☐ 賞味期限を書く

テープに賞味期限を記入し貼り、期限が近いものはすぐ使うBOXに入れる！



☐ てまえどり

今日食べるなら棚の手前から選ぶ
“てまえどり”でお店の食品ロスを減らそう！

☐ 記録する

曜日を決め、庫内を写真に撮る or
庫内の食材をリストにまとめてみましょう！

☐ 食べ残さない

食べる量は、気持ち少な目、食べられる量を
意識してみましょう。外食先でもロスゼロを！

☐ 生成AIを使う

ChatGPTやGemini等に冷蔵庫にあるものを入力。
素敵なレシピを瞬時に教えてくれます！

☐ 本日のおすすめ

お店の人が選んだ、いちばんおいしいタイミングの品。
選ぶとお店もうれしい買い物に！



あなたの「もったいない」を、見える化してみよう！

食品ロスダイアリー調査 モニター募集

食品ロスダイアリーは記録をすることで、意識が行動に反映され、食品ロスが減少していくことがわかっています。
ご家庭でも「食品ロスダイアリー調査」のモニターとして、このプロジェクトに参加してください！
「調査グループ」は水道筋の「S」を選んでください。

調査期間：8月10日～9月10日(1か月間)

実験終了後、9月中旬に登録いただいたメールにて
アンケートをお送りさせていただきます。



gomi-jp-foodloss.com/

もっと食品ロスを知れる！ イベント情報

8月17日(日)

10～12時/14～16時
@ エルナード水道筋ローソン西横
イベントスペース

コーヒーかすでお絵かき

※予約不要

水道筋商店街のお店で出たコーヒーかすを使ってうちわやポストカードなどにお絵かきしよう！
色んな店舗から出た廃材を使ってデコレーションもできるよ。

8月24日(日)

10時半～15時
@ SOWELU

Disco Soup ～水道筋Special party～

※調理に参加希望の方は要予約

まだ食べられるのに捨てられがちな野菜や魚のあらを使って、みんなでスープを作って楽しむ“フードロス啓発イベント”。水道筋商店街のお店から集まった食材で50食分のスープを音楽に合わせて調理。スープのふるまいは13:00スタート予定！なくなり次第終了なので早めにお越しください！ ※スープの振る舞い時間が前後した場合はソエル内でお待ちいただけます。



8月30日(土)

10時半～15時半
@ SOWELU

おやつ付き！今日からはじめるエコアクション ～ みつろうラップづくりワークショップ ～

① 10:30～11:15 ② 11:45～12:30 ③ 13:30～14:15 ④ 14:45～15:30 (各回定員5組) ※要予約
繰り返し何度でも使える食品用エコラップ、みつろうラップをつくるワークショップです。親子でご参加ください！



8月31日(日)

10時～14時
@ SOWELU

親子で楽しく！ ロスゼロクッキング

※要予約(定員5組)

普段つい捨ててしまいがちな野菜が、ちょっとした工夫と商店街の食材でおいしいごちそうに大変身！親子で楽しく食品ロスを学べる料理教室を開催します！商店街の食材を使い、みんなで考えながらお昼ごはんを作ります。まだ食べられる野菜をどう生かすか、一緒に楽しく学びましょう！



【本イベントについてのお問合せ】 株式会社玉子公園(kiwata@w-inc.co.jp)

【本プロジェクトについてのお問合せ】 神戸市環境局事業系廃棄物対策課 gs_jigyoukei@city.kobe.lg.jp



食べて、育てて、また実る。

水道筋サイクル。

環境省 令和6年度補正予算 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等「水道筋商店街界隈の食品ロスゼロ実証事業」



主催：神戸市 共催：神戸大学、株式会社玉子公園、NPO法人わくわく西灘、NPO法人ごみじゃぼん、いちばたけ



もっと食品ロスを知ろう！ イベント情報



8月10日①

10時～16時
@ 水道筋えびす
MUSUBU堂
SOWELU

水道筋十日えびす祭エコラリー

エルナード水道筋で毎月開催される10日えびすの日に「食品ロス」を遊びに変えよう！
3つの拠点で食品ロスの食材を使ったクイズやワークショップが体験できます。
気軽に遊べる4つのワークショップを楽しもう。

- ① 食品ロスクイズ&パネル ② 食べ物の皮を使った染色ワークショップ
③ 店頭飾る食品ロスPOP作り ④ コーヒーかすで作る脱臭パック作り



8月17日②

10～12時/14～16時
@ エルナード水道筋ローソン西横
イベントスペース

コーヒーかすでお絵かき ※予約不要

水道筋商店街のお店で出たコーヒーかすを使ってうちわやポストカードなどに絵をかきしよう！
色んな店舗から出た廃材を使ってデコレーションもできるよ。

8月24日③

10時半～15時
@ SOWELU

Disco Soup ～水道筋Special party～ ※調理に参加希望の方は要予約

まだ食べられるのに捨てられがちな野菜や魚のあらを使って、みんなでスープを作って楽しむ「フードロス啓発イベント」。水道筋商店街のお店から集まった食材で50食分のスープを音楽に合わせて調理。スープのふるまいは13:00スタート予定！なくなり次第終了なので早めにお越しください！ ※スープの振る舞い時間が前後した場合はソエル内でお待ちいただけます。



8月30日④

10時半～15時半
@ SOWELU

おやつ付き！今日からはじめるエコアクション ～みつろうラップづくりワークショップ～

① 10:30～11:15 ② 11:45～12:30 ③ 13:30～14:15 ④ 14:45～15:30 (各回定員5組) ※要予約
繰り返し何度も使える食品用エコラップ、みつろうラップをつくるワークショップです。親子でご参加ください！



8月31日⑤

10時～14時
@ SOWELU

親子で楽しく！ ロスゼロクッキング ※要予約(定員5組)

普段つい捨ててしまいがちな野菜が、ちょっとした工夫と商店街の食材でおいしいごはんに大変身！親子で楽しく食品ロスを学べる料理教室を開催します！商店街の食材を使い、みんなで考えながらお昼ごはんを作ります。まだ食べられる野菜をどう生かすか、一緒に楽しく学びましょう！



あなたの「もったいない」を、見える化してみよう！

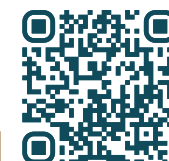
食品ロスダイアリー調査 モニター募集



食品ロスダイアリーは記録をすることで、意識が行動に反映され、食品ロスが減少していくことがわかっています。ご家庭でも「食品ロスダイアリー調査」のモニターとして、このプロジェクトに参加してください！「調査グループ」は水道筋の「S」を選んでください。

調査期間：8月10日～9月10日(1か月間)

実験終了後、9月中旬に登録いただいたメールにてアンケートをお送りさせていただきます。



gomi-jp-foodloss.com/

登録する

上記QRコードからモニターに参加。ページはお気に入りやブックマークにしておく。

記録する

アプリの画面に沿って捨ててしまったものや食べ残しを記録していく。

行動する

必要なものだけ買ったり、ごはんを残さず食べて食品ロスを出さないように行動する。

ロスが減る

みんなが意識し、行動することで食品ロスが減少！環境に優しい商店街が実現します。

水道筋商店街界隈の 食品ロスゼロ実証事業

って何ですか？

本プロジェクトでは水道筋商店街界隈の20店舗のお店が食品廃棄ゼロを目指して、資源循環に取り組んでいます。みなさんも家庭や買い物、飲食店でできることを考えて、食品廃棄ロス削減に向けたアクションを一緒に取り組みましょう。



まるものあし跡
01

Coffee atelier felicia
02

お惣菜 いちよう Etoile
07 08
MAIRO 09

cucina akairo
12

13 であり

11 七花
~nanabana~

10 SOWELU

● 稗田小学校

15 Pizzeria Abbiocco



水道筋えびす

● 倉石保育園
● 倉石公園

MUSUBU堂

jinan 16

17 18

バザバ

● みなと銀行

エルナード水道筋
ローン西橋
イベントスペース

● 交通

いちばたけ

MOLY CRISP 18

19

クラブバー すす

20 新家

飲食店や小売店でできる食品ロス削減アクション

買い物は
食べきれ
量だけ

すぐに食べる
商品は
棚の手前
から

注文前に
ちょっと確認
食べきれ
サイズ？

どうしても
残るときは
持ち帰り
できるか
聞いてみよう

食べて、育てて、また実る。ぐるぐる水道筋サイクル。

小売り、飲食店

食品廃棄物 削減キャンペーン

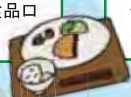
ゴミの分別や計測など、お店でできる工夫にチャレンジ。



住民のみなさん

食品ロス削減

食品ロスダイアリーで記録にチャレンジ。食べ残しを減らす工夫をしたり、食品ロスを学ぶイベントに参加。



ロス食材の活用

食品廃棄物の 資源循環

生ごみはコンポストにしたい肥に。食べ物のゴミはメタンガスとしてエネルギーになるよ。

いちばたけ

農産物生産

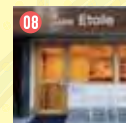
みんなで作ったたい肥でオーガニックの野菜を育てよう。最後はみんなでいただきます。



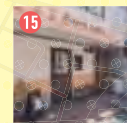
協力店一覧



01 まるものあし跡
@ marumo_no_ashiato



08 cafe Etoile
@ https://etoile-kobe.jp/



15 Pizzeria Abbiocco
@ abbiocco_kobe



02 Coffee atelier felicia
@ coffee_atelier_felicia



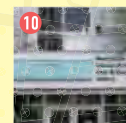
09 MAIRO pez&verdura
@ mayumi_hoshino_mairo



16 韓国料理 jinan
@ jinan.suidousuji



03 トルコライス NATIONAL
@ national_lojken



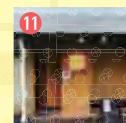
10 cafe SOWELU
@ cafe_sowelu



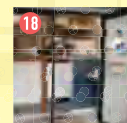
17 Pas A Pas... (バザバ)
@ pazapa926



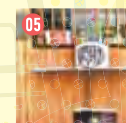
04 Teacafe Colour
@ teacafe_colour



11 七花~nanabana~
@ nanabana0409



18 MOLY CRISP
@ moly_crisp



05 おとんとお欄
@ ototo.okan_kobe



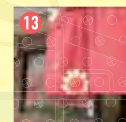
12 cucina akairo
@ cucina.akairo2024



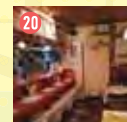
19 クレープバー すす
@ crepe.parloir.suzu



06 明石焼き屋酒場 たこいけ
@ takoike2021



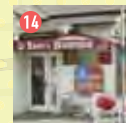
13 てまり
@ temari_marikokko



20 串天と家庭創作料理 新家
@ arataya1996



07 お惣菜 いちよう
@ kozy_isotope1129



14 Shin's BURGER
@ shinsburger0704

@ Instagram X (twitter) ホームページ
おでかけの場合はSNSやホームページにて定休日、営業時間などをご確認ください。

小学生向け環境学習講座

「西クリーンセンター見学×こうべの木でコースター作り」の開催

本市では、豊かな自然環境やクリーンセンター等の施設を活かし、小学生と大人と一緒に学べる体験型の環境学習講座「こうべエコちゃれゼミ」を、年間を通して開催しています。このたび、「迫力ある機械が盛りだくさんのクリーンセンター見学」と、「こうべの木でコースターを作るワークショップ」を一度に体験できるイベントを開催いたします。



1. 開催日時

2025 年 9 月 23 日（火曜・祝日）13 時 30 分～15 時 30 分

2. 会場

西クリーンセンター

○住所

〒651-2106 神戸市西区伊川谷町井吹字三番 圃^{くじ}74 番地の 1

○アクセス

市営地下鉄「西神南」から神姫バス（明石駅行き）に乗車し、バス停「永井谷」より南へ徒歩 5 分

※会場に駐車場はありますが、台数が限られているため、公共交通機関での来場をお願いする場合があります。



3. プログラム

○クリーンセンターの見学

○コースター作りワークショップ

講師のお話：こうべの樹木や派生材の活用について紹介

コースター作り：「KOBE WOOD※」ロゴが刻印された木材を使用

※KOBE WOOD とは、神戸市内の森林管理や都市整備で搬出された自然資源の活用を促進するための、神戸産の木材等に関するブランドです。



4. 講師

曾和 具之さん（合同会社 六甲山クリエイティブラボ 代表）

大学でプロダクト・インテリアデザインを教えながら、ライフワークとして、派生材（伐採材）の活用や田んぼなど循環型社会構築を実践。



5. 対象・定員

神戸市内在住または在学の小学生とその保護者 50 名（要事前申込・抽選）

※ 1 組あたりの上限は 5 名です。

6. 参加費

無料

7. 申込方法

神戸市ホームページ「こうべエコちゃれゼミ」よりお申し込みください。

○URL

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/kurashi/recycle/education/kobeekocharezemi.html>

○二次元コード



○受付期間

8 月 27 日（水曜）10 時 00 分～9 月 15 日（月曜・祝日）23 時 59 分

※ 9 月 18 日（木曜）17 時 00 分までに、メールにて抽選結果をお知らせいたします。

8. 申込等に関するお問い合わせ先

株式会社ベイエリア

○メール

kobe.cc.kengaku@bayarea.jp

○電話

078-265-6080（受付時間 平日 10 時 00 分～17 時 00 分）

9. 主催

神戸市

10. 関連資料

イベントチラシ

西クリーンセンター見学 × こうべの木でコースター作り

2025/ **9** / **23** (火曜・祝)

13:30 ▶ 15:30

会場 📍 西クリーンセンター (西区)

見 学

大迫力の機械が盛りだくさんのクリーンセンターを探検し、
ごみのゆくえを追ってみよう！



住 所 西区伊川谷町井吹字三番瀬(くじ)74番地の1



読み取りで
地図が開きます。

アクセス 市営地下鉄「西神南」から神姫バス(明石駅行き)に乗りし、
バス停「永井谷」より南へ徒歩5分

※会場に駐車場はありますが、台数が限られているため
公共交通機関での来場をお願いする場合があります。

工 作

こうべの木を使って、自分だけのコースターを作ってみよう！



「KOBEOOD*」
ロゴ入り！



※KOBEOODとは、神戸産の木材等に関するブランドです。

講 師

曾和 具之さん

(合同会社 六甲山クリエイティブラボ 代表)
大学でプロダクト・インテリアデザインを教え
ながら、ライフワークとして、派生材(代採材)
の活用や田んぼなど循環型社会構築を実践。



【参加費】 無 料

【定 員】 50 名 (1 組 5 名まで・保護者含む)

【申込期間】 2025 年 8 月 27 日 (水) ▶ 9 月 15 日 (月・祝)
10 時 00 分から 23 時 59 分まで

その他、申込受付中のこうべエコちゃれゼミ

11 月 8 日 土曜日 魔法の布、ふろしきってこんなものも、つつめちゃうんだ！

会場：ふたば学舎 (長田区)

11 月 15 日 土曜日 天気予報作りの裏側をみてみよう！

会場：神戸地方気象台 (中央区)

12 月 6 日 土曜日 むかしのお正月前の里山くらしを体験してみよう！

会場：あいな里山公園 (北区)

「エコちゃれゼミ」参加には、事前申込が必要です。

- ・右記の二次元コードを読み取り、申し込みフォームよりお申し込みください。
- ・お申し込みの前に、必ず注意事項をご確認いただき、申込フォームに必要事項をご記入ください。
- ・登録のメールアドレスは、株式会社ベイエリア (@bayarea.jp) からのメールを受信できるよう、あらかじめ設定をお願いします。※いただいた個人情報は適切に管理します。
- ・やむを得ず、講座の内容を変更または中止する場合があります。
その際は、事務所からの一斉メールをもってお知らせいたします。

主 催

神戸市環境局

KOBEOOD
CITY of DESIGN

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/kurashi/recycle/education/kobeekocharezeemi.html>

お問合せ・企画・運営

株式会社 ベイエリア

担当：振角

✉ mail:kobe.cc.kengaku@bayarea.jp

21

TEL: 078-265-6080

平日 10:00 ~ 17:00

申し込みはこちら



サッカー観戦をきっかけに「エコノバ」を利用しよう！
「デコ活アクション IN KOBE」キャンペーンがスタート！！



神戸市は、楽天グループ株式会社（以下「楽天」）、楽天ヴィッセル神戸株式会社が運営するサッカー・明治安田 J1 リーグのヴィッセル神戸、アイナックフットボールクラブ株式会社が運営する女子サッカー・SOMPO WE リーグの INAC 神戸レオネッサと合同で、環境に配慮した行動を促進する「デコ活アクション IN KOBE -試合の日も、日常のエコも。神戸が一つになるアクションを-」を開始します。

エコノバの利用などエコな活動をすることで、グッズが当たる抽選ができますので、是非参加してください。

1. デコ活アクション IN KOBE とは

環境省の「デコ活」推進事業の一環として、スポーツを通じた 3 R への取組を促進するため、楽天、ヴィッセル神戸、INAC 神戸レオネッサ、神戸市の各者協力により、以下のキャンペーンを実施します（詳細は以下 URL 参照）。

<https://corp.rakuten.co.jp/event/betterfuturetogether/decoaction/>

2. キャンペーンの概要

キャンペーンに参加することでヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサのグッズが当たる抽選に応募できます（キャンペーン参加には、楽天会員登録が必要）。



※グッズ写真はイメージです

(1) スタンプカードキャンペーン

○開催期間：2025 年 9 月 12 日（金曜）10:00 ～ 2025 年 12 月 12 日（金曜）9:59

○概 要：エコな活動をしてスタンプを集めると抽選に応募できる。

○スタンプ獲得場所：

①市内のエコノバ（9 月 12 日時点 55 か所）

期間中、エコノバに資源を出すとスタンプを獲得
（エコノバにより回収品目が異なる）。

※市内のエコノバと回収品目は以下 URL 参照

<https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/kurashi/recycle/recovery-of-plastic-resources.html>



②ノエビアスタジアム神戸

- ・試合会場で、ゴミの分別、紙・プラカップ回収に協力するとスタンプを獲得。
- ・アップサイクルグッズや循環型ショッパー（袋）の購入でスタンプ獲得。
- ・スタジアム外側の臨時エコノバブースで、資源を出すとスタンプを獲得。

（エコノバブース回収資源：つめかえパック、歯ブラシ、豆腐容器、プチプチ®）

※対象となる試合日

＜ヴィッセル神戸の試合日＞

9 月 23 日（火曜・祝日）、9 月 27 日（土曜）、10 月 17 日（金曜）、11 月 30 日（日曜）

＜INAC 神戸レオネッサの試合日＞

9 月 21 日（日曜）、10 月 13 日（月曜）、11 月 2 日（日曜）

(2) 「楽天市場」、「楽天ラクマ」での中古品購入キャンペーン

○開催期間：2025 年 9 月 12 日（金曜）10:00 ～ 2026 年 1 月 16 日（金曜）9:59

○概 要：「楽天市場」および「楽天ラクマ」において衣類や本・雑誌など、キャンペーン対象の中古品を購入すると抽選に応募できる。

(参考) デコ活とは

環境省が 2050 年カーボンニュートラルおよび 2030 年度削減目標の実現に向け、国民の行動変容、ライフスタイルの転換を強力に後押しするため、2022 年 10 月に発足させた新しい国民運動のこと。脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿を紹介するとともに、国・自治体・企業・団体等が連携し、国民の新しい暮らしを後押ししています（詳細は以下 URL 参照）。

<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>

デコ活 アクション IN KOBE



試合の日も、日常のエコも。
神戸が一つになるアクションを



スポーツとともに、もっといい未来へ。 Rakuten
A BETTER FUTURE TOGETHER



KOBE
CITY of DESIGN



© VISSSEL KOBE / © INAC KOBE LEONESSA

スペシャル企画



スタジアムとエコノバでスタンプを
貯めて豪華賞品をゲットしよう!

Rakuten Rakuma × Rakuten

キャンペーン

エントリー&対象中古品購入で

お宝グッズが当たる
キャンペーン実施中!

キャンペーンにエントリーして
豪華賞品をゲットしよう!

ノエビアスタジアム神戸から
神戸市のスポーツチームと一緒に
みんなで環境に優しい取り組みを始めよう!



開催期間

9/12(金) 10:00 ~ 12/12(金) 9:59

デコ活アクション IN KOBE

試合の日も、日常のエコも。神戸が一つになるアクションを

スタジアムと日常で!
エコアクションでスタンプを集めてお宝グッズを GET しよう!

過去のシーズンのお宝オリジナルグッズや
選手サイン入りグッズが当たる!



VISSEL KOBE



INAC KOBE LEONESSA



スタジアムでのスタンプの集め方



※アップサイクルワークショップ、循環型ショッパーの販売、プラスチック袋回収はヴィッセル神戸の試合のみで実施されます
※アップサイクル/ワークショップはヴィッセル神戸の試合 (9/23 vs. 東京V) のみ実施されます



日常でのスタンプの集め方

地域のエコノバに資源を持ち込む
営業時間内であれば、いつでも持ち込み可能。
神戸市内各所に拡大中!
近くのエコノバへ資源を持って行こう!



スタンプラリーの
詳細はこちら



エコアクションに参加できる試合はこちら!



VISSEL KOBE



INAC KOBE LEONESSA

9/23 (TUS) 19:00	vs. 東京V
10/17 (FRI) 19:00	vs. 鹿島

9/27 (SAT) 19:00	vs. 清水
11/30 (SAN) 14:00	vs. FC東京

9/21 (SUN) 16:00	vs. 浦和
11/2 (SUN) 14:00	vs. N相模原

10/13 (MON) 15:00	vs. マイ仙台
----------------------	----------

さらに! 楽天市場 / ラクマでの中古品購入でも
お宝グッズが当たるチャンス!

150
名様

選手 T シャツ



VISSEL KOBE

150
名様

応援 T シャツ



INAC KOBE LEONESSA

キャンペーンエントリーは
こちら





2025 年 9 月 12 日

Press Release

楽天グループ株式会社

神戸市

楽天ヴィッセル神戸株式会社

アイナックフットボールクラブ株式会社

楽天、神戸市、ヴィッセル神戸およびINAC 神戸レオネッサ、
「デコ活アクション IN KOBE -試合の日も、日常のエコも。神戸が一つになるア
クションを-」を開始

- スタジアムのエコ行動から資源回収ステーション利用、中古品売買まで、
スポーツを通じた神戸の資源循環型ライフスタイルを促進 -

URL : <https://corp.rakuten.co.jp/event/betterfuturetogether/decoaction/>

楽天グループ株式会社（以下「楽天」）、神戸市、楽天ヴィッセル神戸株式会社が運営するサッカー・明治安田 J 1 リーグのヴィッセル神戸、アイナックフットボールクラブ株式会社が運営する女子サッカー・SOMPO WE リーグの INAC 神戸レオネッサは、各者のリソースを活用し、環境に配慮した行動を促進する「デコ活アクション IN KOBE -試合の日も、日常のエコも。神戸が一つになるアクションを-」（以下「本施策」）を本日開始しました。



本施策は、楽天のサステナビリティ活動「スポーツとともに、もっといい未来へ。A BETTER FUTURE TOGETHER」における活動指針の一つである「Green for Future」に基づき、ヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサのサポーター、神戸市民に向けて、スポーツ観戦をきっかけとして日常的な環境配慮型行動の定着を促し、持続可能な未来を目指すために実施するものです。本施策の第 1 弾として、対象とな

るエコアクションやキャンペーン概要を掲載した特設ページを楽天のコーポレートサイト上に本日公開しました。

本年9月12日（金）からは、スタジアムにおけるごみの分別や紙・プラカップ回収などのエコアクションに参加したり、神戸市の資源回収ステーション「エコノバ」（注1）を利用したりすると獲得できるスタンプを集めたユーザーを対象に、ヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサの未活用グッズを抽選でプレゼントするキャンペーンを実施します。さらにオンラインにおいても、楽天が運営するインターネット・ショッピングモール「楽天市場」およびフリマアプリ「楽天ラクマ」にて、対象の中古品を購入したユーザーを対象に、ヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサの未活用グッズを抽選でプレゼントするキャンペーンを実施します。

本施策は、4 者が環境省の令和6年度（補正予算）CO2 排出抑制対策事業費等補助金（「デコ活」（注2）推進事業）にて、「スポーツの熱狂と持続可能なインセンティブの活用による神戸市の資源循環型ライフスタイル促進・定着事業」に採択されたことを受けたものです。ごみの分別や紙・プラカップ回収といったスタジアムで実施したエコアクションや、神戸市が提供する「エコノバ」の利用に加え、「楽天市場」「楽天ラクマ」での中古品売買といった日常の行動に定着させるスキームを社会実装することで、脱炭素につながる新たな活動が広がることを目指します。

4 者は今後も、スポーツを通じて資源の好循環を図ることで、これからもスポーツを楽しめる豊かな環境の維持や、神戸市の循環型社会形成に寄与すべく取り組んでまいります。

（注1）神戸市が提供する、新しいリサイクルに挑戦するため、プラスチックを中心としたごみを資源として回収する場所で、地域交流の場づくりも目的としています。具体的には、品目ごとにプラスチックなどを回収しています。また、休憩スペースを設け、「エコノバ」に訪れた地域住民が一息つけるようにしており、資源を出すことをきっかけに地域交流を促します。

（注2）環境省が2050年カーボンニュートラルおよび2030年度削減目標の実現に向け、国民の行動変容、ライフスタイルの転換を強力に後押しするため、2022年10月に発足させた新しい国民運動のこと。脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿を紹介するとともに、国・自治体・企業・団体等が連携し、国民の新しい暮らしを後押ししています。

URL：<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>

■「デコ活アクション IN KOBE -試合の日も、日常のエコも。神戸が一つになるアクションを-」概要

URL：<https://corp.rakuten.co.jp/event/betterfuturetogether/decoaction/>

特設ページ公開日：2025年9月12日（金）

概要：環境省の「デコ活」推進事業に基づき、楽天、神戸市、ヴィッセル神戸、INAC 神戸レオネッサがスポーツを通じた神戸の資源循環型ライフスタイルを促進するため、各社のリソースを活用し、グッズの抽選キャンペーンなどを実施する取り組み

＜スタンプカードキャンペーン概要＞

開催期間：2025年9月12日（金）10:00～2025年12月12日（金）9:59

概要： 楽天のデジタルスタンプカード機能より、本施策のスタンプカードに参加エントリーのうえ、スタジアムにおけるゴミの分別や紙・プラカップ回収、神戸市が提供する「エコノバ」の利用などで獲得できるスタンプを集めたユーザーを対象に、ヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサの未活用グッズを抽選でプレゼント

対象試合日：

- ・ヴィッセル神戸： 4 試合（2025 年 9 月 23 日（火）、9 月 27 日（土）、10 月 17 日（金）11 月 30 日（日））
- ・INAC 神戸レオネッサ： 3 試合（2025 年 9 月 21 日（日）、10 月 13 日（月）、11 月 2 日（日））

＜「楽天市場」「楽天ラクマ」における中古品購入キャンペーン概要＞

URL： <https://event.rakuten.co.jp/area/japan/decoactionreuse/>

開催期間： 2025 年 9 月 12 日（金）10:00～2026 年 1 月 16 日（金）9:59

概要： 「楽天市場」に設置する本キャンペーンのエントリーページから参加エントリーのうえ、「楽天市場」および「楽天ラクマ」において衣類や本・雑誌などといった対象の中古品を購入したユーザーを対象に、ヴィッセル神戸や INAC 神戸レオネッサの未活用グッズを抽選でプレゼント



※グッズ写真はイメージです。

※キャンペーンの詳細は特集ページ内の各キャンペーンの紹介よりご確認ください。

■「エコノバ」について



神戸市内にある、プラスチックの先進的なリサイクルと、地域交流の場づくりを目的とした、プラスチックを中心としたごみを資源として回収する場所です。「エコノバ」は、2025 年 9 月 12 日現在 55 カ所設置が進んでおり、市民の皆様が身近な場所で気軽に立ち寄れるようにするため、小学校区に 1 から 2 カ所の設置を目標としています

■「スポーツとともに、もっといい未来へ。A BETTER FUTURE TOGETHER」について

楽天は、スポーツをきっかけに、多くの方の「もっといい未来」を創っていくことを目的に、「スポーツとともに、もっといい未来へ。A BETTER FUTURE TOGETHER」をテーマにした活動を行っています。ダイバーシティ、公平性、インクルージョンを意識し、スポーツに関わる様々な局面でスポーツを誰

もが自分らしく楽しめる環境を創り出す「Sports for Everyone」と、気候変動対策や資源の好循環を実現し、これからもスポーツを楽しめる豊かな環境を生み出すことを目指す「Green for Future」という2つの指針につながる活動を行っています。

URL : <https://corp.rakuten.co.jp/event/betterfuturetogether/>

以 上

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

楽天グループ株式会社 コマース&マーケティングカンパニー EC広報課

E-mail: rakuten-ichibapr@mail.rakuten.com

※本メールは送信専用アドレスからお送りしております。本メールに直接ご返信いただくと、自動的にご返信可能な「rakuten-ichibapr@mail.rakuten.com」が返信先の宛名に差し込まれます。

※別途、アドレスを入力してメールを送信される際は、お問い合わせ欄に記載しておりますメールアドレスをご利用いただくようお願いいたします。

※配信停止をご希望の方は、返信先の宛名に差し込まれます「rakuten-ichibapr@mail.rakuten.com」までご連絡ください。

楽天ヴィッセル神戸株式会社 広報：菅井

TEL : 078-599-8077 Email : vissel-koho@mail.rakuten.com

アイナックフットボールクラブ株式会社 広報：座間

TEL : 078-822-0190 Email : pr@inac-kobe.com

記者資料提供（2025 年 9 月 18 日）

神戸市環境局 資源循環課 井関・西郷

事業系廃棄物対策課 宮田・福田

TEL：078-595-6078（内線 955-3524） E-mail:3r@city.kobe.lg.jp

～10 月は食品ロス削減月間～ 様々な取り組みで食品ロスを減らそう！

「食品ロス」は「本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品」のことで、飲食店や小売店から廃棄される商品だけではなく、家庭で捨ててしまった賞味期限切れの食品や食べ残しも含まれます。

日本では、年間約 464 万トンの食品ロスが発生しており、これは国民 1 人あたり毎日おにぎり 1 個分相当のご飯を廃棄している計算となります（2023 年度推計）。国では毎年 10 月を「食品ロス削減月間」として、食品ロス削減に向けて集中的に取り組んでいます。

市でも、より多くの方が食品ロス削減に取り組んでいただけるよう、食品ロス削減月間の機会を活かし、啓発を行っていきます。



1. 食品ロス削減関連イベント

（1）神戸市と「さんちか」との連携で、フードドライブ（期間限定）実施します

①場所

さんちか夢広場（神戸市中央区三宮町 1-10-1 地下 1 階）

②日時

2025 年 9 月 29 日（月曜）・30 日（火曜）10 時～19 時

（2）「SUMArt DAYS -みんなでつながる。海と、須磨と。-」でフードドライブ（期間限定）実施します

①場所

須磨海浜公園パークコンシェルジュ棟（神戸市須磨区須磨浦通 1-1-4）付近

②日時

2025 年 10 月 18 日（土曜）・19 日（日曜）・25 日（土曜）・26 日（日曜）10 時～16 時

（3）地域つながるフォーラム 2025（コープこうべと連携した啓発イベント）

①場所

コープこうべ 生活文化センター内「コレルせいぶん」
（神戸市東灘区田中町 5-3-18）

②日時

2025 年 11 月 15 日（土曜）10 時～14 時

③内容

テーマ「エシカルで実現する持続可能な暮らし」のうちの 1 つとして、
食品ロス削減 PR（食品ロスダイアリーの紹介、食品ロスクイズ等）、

こうベキエーロ PR（取り組み方の紹介、質問対応コーナー）を実施

<https://event.kobe.coop/detail/index.php?id=147090>

※当日、食品ロスダイアリーウェブアプリに登録いただいた神戸市民に、神戸市指定ごみ袋（30ℓ燃えるごみ 10 枚入り・先着 100 名様）をプレゼント！

2. 家庭で取り組める食品ロス削減の取り組み

（1）食べる予定がない食品は「フードドライブ」で寄付

家庭で余っている食品は、必要とする福祉団体や施設等に寄付することもできます。市内のスーパー等（116 箇所）で食品の回収を行っているので、近くの実施場所を調べてみてください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/kurashi/recycle/gomi/genryo/namagomi/namagomi/fooddrive/index.html>

① 株式会社関西フードマーケット傘下の店舗でフードドライブ（期間限定）実施します

ア. 実施店舗

関西スーパーセルバ店	神戸市東灘区森南町 1-5-1
関西スーパー琵琶店	神戸市灘区琵琶町 3-5-19
関西スーパー兵庫店	神戸市兵庫区羽坂通 4-1-1
関西スーパー大開店	神戸市兵庫区水木通 7-1-10
関西スーパーレ・アール店	神戸市北区北五葉 1-13-1
関西スーパー八多店	神戸市北区八多町中 1150
関西スーパー舞多聞店	神戸市垂水区舞多聞東 2-1-45
関西スーパー名谷店	神戸市垂水区名谷町字向井畑 3487-2
阪急オアシス石屋川店	神戸市東灘区御影塚町 4-11-20
阪急オアシス御影店	神戸市東灘区御影中町 3-2-1 御影クラッセ 1 階
阪急オアシス本山南店	神戸市東灘区本山南町 3-2-1
阪急オアシス六甲店	神戸市灘区宮山町 3-1-25
阪急オアシス神戸旭通店	神戸市中央区旭通 4-1-4
阪急オアシス神戸三宮店	神戸市中央区加納町 4-2-1
イズミヤ神戸玉津店	神戸市西区森友 3-7-3
イズミヤ西神戸店	神戸市西区竜が岡 1-21-1
デイリーカナートイズミヤ御影店	神戸市東灘区御影本町 2-6-10
デイリーカナートイズミヤ鶴越町店	神戸市兵庫区鶴越町 17-4

イ. 実施日

2025 年 10 月 2 日（木曜）～4 日（土曜） 10 時 30 分～17 時

(2)「食品ロスダイアリー」で家庭での食品ロスを確認

家庭で廃棄する手付かず食品や食べ残しを記録する日記をつけて、ご家庭でどれくらい食品ロスを出しているのか、記録にチャレンジしてみてください。思っている以上に食品を捨ててしまっているかもしれません。

<https://gomi-jp-foodloss.com/>



(3) 食べ物を大切にする購買行動「てまえどり」

買ってすぐに食べるときは、お店の棚の手前にある期限の近い商品を積極的に選ぶ「てまえどり」にご協力をお願いします。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a25748/business/kankyotaisaku/enterprise/temaedori/index.html>



① てまえどり実施の拡大

株式会社関西フードマーケットと連携し、店舗の売り場において、「てまえどり」を呼び掛ける啓発を実施します。

ア. 新たな実施店舗

神戸市内の阪急オアシス、イズミヤ、デイリーカナートイズミヤ 計 10 店舗

イ. 内容

2025 年 10 月 1 日（水曜）から、各店舗の売り場で啓発 POP を掲示し、市民の皆様への「てまえどり」啓発を実施。

3. ネットモニターアンケートを実施します

ネットモニター登録者を対象に、アンケートを実施します。食品ロス削減事業に関する市民の皆さまの取組みを把握させていただき、今後の食品ロス削減事業の参考にさせていただきます。ご協力をお願いします。

アンケート実施期間：2025 年 10 月 1 日（水曜）～10 月 14 日（火曜）

（参考）アンケートに参加いただくためには、神戸市ネットモニターへの登録が必要です。10 月 14 日までに登録のうえ、アンケートへご回答ください。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a84159/shise/kocho/netmonitor/index.html>

記者資料提供（2025 年 9 月 30 日）

環境局脱炭素推進課 青位・白川

TEL : 078-595-6088 E-mail: energy@city.kobe.lg.jp

港湾局港湾計画課 谷・浜端

TEL : 078-595-6301 E-mail: minato_keikaku@city.kobe.lg.jp



「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」を構築 ～ 脱炭素投資を金融面から支援します ～

神戸市では、株式会社三井住友銀行（以下、「三井住友銀行」）の支援を受け、市域の脱炭素投資に係る資金調達をサポートする枠組み「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」（以下、「本フレームワーク」）を構築しましたので、お知らせします。

本フレームワークに基づくファイナンス活用により、市内事業者の再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を後押しし、2050 年カーボンニュートラルの実現を目指します。

1. サステナブルファイナンス・フレームワークとは

近年、気候変動への対応など社会的課題の解決に対応し、持続可能な社会に転換していく資金を提供する金融「サステナブルファイナンス」の重要性が高まっています。サステナブルファイナンスを活用した資金調達により、国際ルールに準拠した脱炭素投資が行えるほか、サステナビリティ経営の高度化、社会的な支持の獲得等に繋がる可能性があります。

一般的に、サステナブルファイナンスの活用には、主に以下項目が必要になります。

①フレームワーク※の策定

※資金用途や投資効果の報告方法など、国際ルールに定められた各種要件を規定した全体計画書

②第三者評価取得と取得費用の負担

③レポート作成・公表など

本フレームワークは、本市が中心に策定し、第三者評価の取得や年次公表を行うことで、実際に設備投資を行う個別事業者の負担を大幅に軽減できるスキームです。

なお、本事業は、本市が進める「脱炭素先行地域」における取組の一環であり、共同提案者である三井住友銀行から助言を得ながら構築しています。

2. 本フレームワークの概要

（１）対象事業者

市内で事業活動を営んでいる事業所（工場・事業場・店舗等）を有し、かつサステナブルファイナンスにより調達した資金を市内の事業に充当する事業者

（２）対象金融機関

市内に本店又は支店がある金融機関のうち、本フレームワークに基づく事務手続き

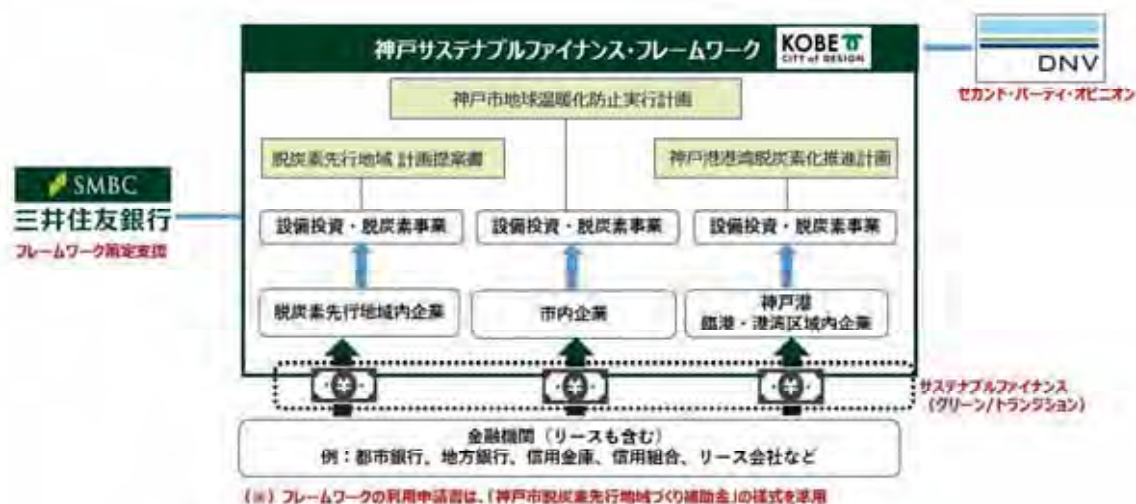
の実施が可能であり、かつ本市へ参加表明書を提出・承認を受けた金融機関

(3) ファイナンスに関する基本情報

区分	内容
ファイナンス種別	・グリーンローン（リース含む） ・トランジションローン（リース含む）
ファイナンス期間	2031年3月31日までに契約締結がなされるものとし、期間は1年以上
融資限度額	上下とも限度額は設定しない
資金使途	「神戸市地球温暖化防止実行計画」、「神戸港港湾脱炭素化推進計画」及び本市が進める「脱炭素先行地域」計画に基づく適格プロジェクトへの投資（全額充当）
金利等諸条件について	取扱い金融機関ごとの個別判断

(4) 主な特徴

- ・自治体が策定した第三者利用を目的とした資金使途特定型フレームワーク
- ・本市の脱炭素推進に向けた3つの計画に基づく適格プロジェクトに対応した事業であれば、幅広い脱炭素投資へ活用が可能
- ・脱炭素先行地域の補助金様式を準用することで、市・事業者の事務負担を軽減



「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」の全体イメージ

(5) 本フレームワークの詳細・申請書類等

<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/energy/20250930.html>

3. 第三者評価について

2025年9月30日付で、国際原則・ガイドラインとの整合性に関する第三者評価意見を、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社より取得しています

https://webmagazine.dnv.co.jp/assets/images/sus_list/data/sus_finance_list/_pdfreport_j/135.City%20of%20Kobe.pdf

【参考】共同発表について

本件は、三井住友銀行、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社、本市の 3 者共同で記者資料提供を行っています。

- ・別紙「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」の公表について（神戸市、株式会社三井住友銀行、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社 2025 年 9 月 30 日共同発表）

【参考】脱炭素先行地域について

脱炭素先行地域とは、2050 年カーボンニュートラルに向け、2030 年度までに先進的に脱炭素に取り組む地域として国が選定するもので、本市は 2024 年 9 月に採択を受けました。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/ondanka/3c7.html>

【NEWS RELEASE】

2025 年 9 月 30 日

各 位

神 戸 市
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行
DNV ビジネス・アシュアランス・
ジ ャ パ ン 株 式 会 社

「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」の公表

神戸市（市長：久元 喜造）は、2025 年 9 月 30 日付で、株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕、以下、「三井住友銀行」）の支援を受けて構築した「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」（以下、「本フレームワーク」）を公表しました。

本フレームワークに基づくファイナンス活用により、神戸市内事業者における再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入を後押しし、2050 年カーボンニュートラルの実現を目指します。

■サステナブルファイナンス・フレームワークとは

近年、気候変動への対応など社会的課題の解決に対応し、持続可能な社会に転換していく資金を提供する金融「サステナブルファイナンス」の重要性が高まっています。サステナブルファイナンスを活用した資金調達により、国際ルールに準拠した脱炭素投資が行えるほか、サステナビリティ経営の高度化、社会的な支持の獲得等に繋がる可能性があります。

一般的に、サステナブルファイナンスの活用には、主に以下項目が必要になります。

①フレームワーク（注）の策定

（注）資金使途や投資効果の報告方法など、国際ルールに定められた各種要件を規定した全体計画書

②第三者評価取得と取得費用の負担

③レポート作成・公表など

本フレームワークは、神戸市が中心に策定し、第三者評価の取得や年次公表を行うことで、実際に設備投資を行う個別事業者の負担を大幅に軽減できるスキームです。

なお、本事業は、神戸市の「脱炭素先行地域」における取組の一環であり、共同提案者として事業参画する三井住友銀行がフレームワークの作成を支援しています。

■本フレームワークの概要

（１）対象事業者

神戸市内にて、事業活動を営んでいる事業所（工場・事業場・店舗等）を有しており、かつサステナブルファイナンスにより調達した資金を市内の事業に充当する事業者。

（２）対象金融機関

神戸市内に本店又は支店がある金融機関のうち、本フレームワークに基づく事務手続きの実

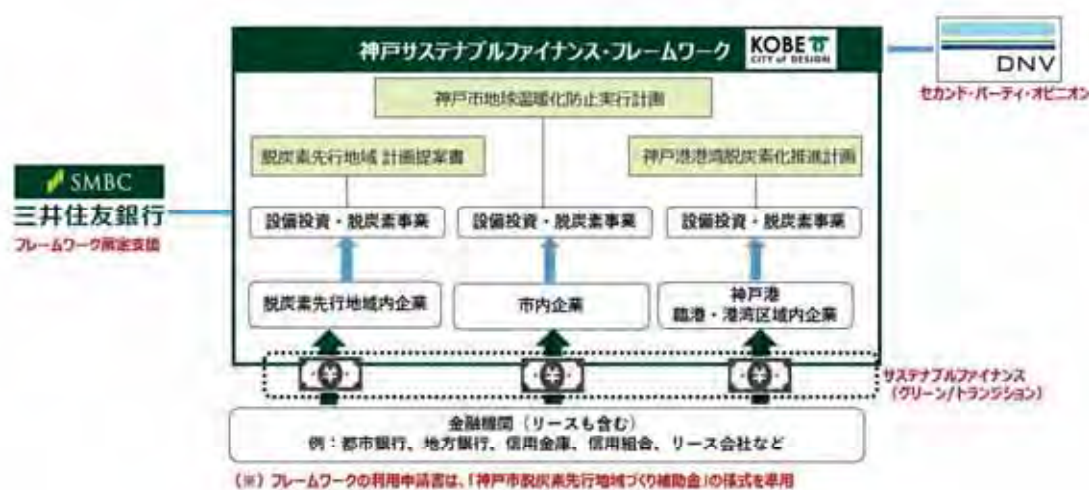
施が可能であり、かつ神戸市に参加表明書を提出・承認を受けた金融機関。

(3) ファイナンスに関する基本情報

区分	内容
ファイナンス種別	・グリーンローン（リース含む） ・トランジションローン（リース含む）
ファイナンス期間	2031 年 3 月 31 日までに契約締結がなされるものとし、期間は 1 年以上
融資限度額	上下とも限度額は設定しない。
資金使途	「神戸市地球温暖化防止実行計画」、「神戸港港湾脱炭素化推進計画」及び神戸市「脱炭素先行地域」計画に基づく適格プロジェクトへの投資（全額充当）
金利等諸条件について	取扱い金融機関ごとの個別判断

(4) 主な特徴

- ・自治体が策定した第三者利用を目的とした資金使途特定型フレームワーク
- ・神戸市の脱炭素推進に向けた 3 つの計画に基づく適格プロジェクトに対応した事業であれば、幅広い脱炭素投資へ活用が可能
- ・脱炭素先行地域の補助金様式を準用することで、神戸市・事業者の事務負担を軽減



「神戸サステナブルファイナンス・フレームワーク」の全体イメージ

(5) 本フレームワークの詳細・申請書類等

<https://www.city.kobe.lg.jp/a73498/energy/20250930.html>

■第三者評価について

神戸市は、2025 年 9 月 30 日付で、本フレームワークと、関係する国際原則・ガイドラインとの整合性に関するセカンド・パーティ・オピニオンを、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社より取得しています。

https://webmagazine.dnv.co.jp/assets/images/sus_list/data/sus_finance_list/_pdfreport_j/135.City%20of%20Kobe.pdf

■問合せ先

(本取組全体について)

神戸市環境局脱炭素推進課 TEL : 078-595-6088 Mail : energy@city.kobe.lg.jp

(サステナブルファイナンス全般について)

株式会社三井住友銀行 広報部 金井 TEL : 06-6227-2510

(第三者評価について)

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

神戸事務所（本部）サステナビリティサービス部 Tel : 078-291-1321 Mail : ssj@dnv.com

プラスチック一括回収の方策に関するサウンディング型市場調査の実施

近年、脱炭素社会への移行や持続可能な社会の実現が、世界的に喫緊の課題となっており、2022 年 4 月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行され、限られた資源を繰り返し利用することで資源循環と経済成長の両立を目指すサーキュラーエコノミーへ移行していくことが重要となっています。

このような状況で本市は、プラスチックの資源循環に向け、容器包装プラスチックとそれ以外の製品プラスチックの一括回収及びリサイクルを検討しています。

1. 調査目的

プラスチック一括回収に向けた事業手法や事業スケジュール等の詳細設計に役立てるため、サウンディング型市場調査を実施します。

2. 調査内容

- ・ 受入可能なプラスチックの基準、受入条件（荷姿、搬入条件等）
- ・ 受入可能量（搬入量ベース）、受入可能時期、受入場所
- ・ 新たに施設を建設する場合に必要な敷地面積
- ・ 再商品化手法（エネルギー回収を除く）及び再商品化工程
- ・ 再商品化に要する費用や積算の考え方
- ・ 施設が故障した場合の受入対応
- ・ 再商品化工程全体の温室効果ガス排出量の低減に向けた取組
- ・ その他、事業実施に向け連携可能な事項（例：モデル事業実施、市民啓発など）

3. スケジュール

実施要領の公表	2025 年 10 月 8 日（水曜）
質問の受付期限	2025 年 10 月 21 日（火曜）
質問への回答の公表	2025 年 10 月 24 日（金曜）
参加申込書・概要書の提出期間	2025 年 10 月 27 日（月曜）から 10 月 31 日（金曜）
ヒアリング調査の実施	2025 年 11 月 10 日（月曜）から 11 月 13 日（木曜）
実施結果概要の公表	2025 年 12 月下旬

4. 実施要領・様式

下記の HP からダウンロードができます。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a36643/sounding-plastic.html>

記者提供資料（2025 年 10 月 8 日）

環境局自然環境課 岡田、矢野、野坂

TEL：078-595-6216 内線：955-3722

E-mail:biodiversity@city.kobe.lg.jp

里地里山の活動拠点「KOBE 里山自然共生センター」がオープン

～30by30 の実現に向けて～

2030 年までに各国の陸と海の 30%以上の面積を保全する国連の生物多様性条約 COP15 で採択された世界目標の「30by30 目標」の実現に向け、国内では生物多様性の保全が図られている地域を「自然共生サイト※¹」に認定しています。2023 年 10 月には神戸市北区の里地・里山（約 180ha）がこの第一弾に認定されました。また、2024 年 8 月に本区域が、生物多様性保全に資する地域である「OECM」※² (Other Effective area-based Conservation Measures) として、国連が管理する国際データベースに登録されました。

この里地・里山にて、既存の活動や来訪者の見学・体験の拠点となる「KOBE 里山自然共生センター」が 2025 年 11 月に完成します。完成を記念して、オープニングイベントを開催しますのでお知らせします。

※1 企業、団体、自治体等によって生物多様性の保全が図られている区域

※2 国立公園など保護地区ではない地域のうち、生物多様性を効果的にかつ長期的に保全しうる地域。

1 施設の名称

KOBE 里山自然共生センター（英名：Kobe Satoyama Nature Center）

2 施設の概要

神戸市産材を用いて建築された KOBE 里山自然共生センターは、里山の景観と呼应し、里山活動の広がりを生む「円型」の外観となっています。内部は 30 名程度が着座で研修可能なスペースを有し、更衣室も設備しています。詳細はホームページを参照ください。

（ホームページはこちら）



3 所在地

神戸市北区山田町西下字上灰床 6（地番表記）



4 オープニングイベント

○里地・里山のトレイルウォーク

- ・概要
KOBЕ 里山自然共生センターのオープンの記念式典と自然共生サイトのトレイルウォークを通じて、里山の豊かな自然環境や里山の管理手法を学ぶ。
- ・日時
2025 年 11 月 9 日（日）9:00～15:00（予備日 11 月 16 日（日））
- ・対象
神戸市在住・在勤・在学の中学生以上の体力に自信のある方
- ・イベント内容
 - ーKOBЕ 里山自然共生センターのオープニング記念式典
 - ー里山歩き（トレイルウォークにて、森林管理事業、耕作放棄地の棚田や畑の再生活動、秋の自然観察の様子を解説付で見学）
 - ーKOBЕ 備長炭で調理した地元食材等の試食会
- ・申込み
おでかけ KOBЕ（右記二次元コード）



○ネイチャーポジティブ経営を神戸の里地里山を見て考える 2025

- ・概要
「カーボンニュートラル」と並び、「ネイチャーポジティブ」を経営に取り込む機運が高まる中、国際社会で企業が生き残るために「ネイチャーポジティブ」をどのように推進すべきかを学ぶ。
- ・日時
2025 年 11 月 19 日（水）13:30～17:30（予備日：12 月 12 日（金））
- ・対象
企業等（1 企業 2 名まで）
- ・イベント内容
里地・里山の保全と企業との関わりを学ぶ（森林管理事業の見学・耕作放棄地の棚田や畑の再生活動の見学、専門家を招いたフォーラム）
- ・協賛
損害保険ジャパン株式会社、みなと銀行株式会社
- ・申込み
おでかけ KOBЕ（右記二次元コード）



5 里山管理体験会（予定）

以下の里山管理体験会も予定しています。詳細は今後ホームページ等でお知らせします。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 11 月 22 日（土）・23 日（日） | 里山放置林の再生整備体験会 |
| 12 月 6 日（土） | 隠し棚田跡の放置竹林の整備体験会 |

6 取材申込み

「4 オープニングイベント」の取材をご希望される場合、別紙「取材申込書」に必要事項を記入のうえ、取材申込書に記載の締切までにFAXもしくはE-mailにてお申込みください。

記者資料提供（2025 年 10 月 14 日）

神戸市環境局資源循環課 井関・西田

TEL：078-595-6078（内線 955-3523） E-mail:3r@city.kobe.lg.jp

～環境省「令和 7 年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」～ ローソン店舗でリチウムイオン電池の回収実証・資源ぐるりマップの公開

携帯電話やスマートフォン、モバイルバッテリー等に使用されているリチウムイオン電池は、ごみ収集車やごみ処理施設で圧縮・破砕されるなど、強い力がかかることで発熱・発火する可能性があります。

このたび、環境省事業「令和 7 年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」の一環として、市内で株式会社ローソンと連携した回収実証や、資源回収拠点マップの試行的公開が行われますので、お知らせいたします。

※実証事業の詳細は、（別紙）実証事業の概要をご参照ください。

○神戸市における回収実証の概要

対象品目：

携帯電話・スマートフォン、加熱式たばこ・電子たばこ、モバイルバッテリー

回収場所・期間：

①ローソン神戸市役所西店（中央区江戸町 96）

2025 年 10 月 15 日（水曜）～2026 年 1 月 31 日（土曜）

※2025 年 12 月 26 日（金曜）～2026 年 1 月 4 日（日曜）は回収休止

②ローソン神戸星陵台五丁目店（垂水区星陵台 5-11-1）

2025 年 12 月中旬～2026 年 1 月 31 日（土曜）

※2025 年 12 月 26 日（金曜）～2026 年 1 月 4 日（日曜）は回収休止

○資源ぐるりマップの紹介

環境省では、回収実証の実施に合わせ、小型家電やリチウムイオン電池の回収拠点を見える化するウェブシステム「資源ぐるりマップ」を試行的に運用しています。神戸市では、小型家電やリチウムイオン電池に加え、新聞・段ボール等の古紙類、衣類や古着古布、蛍光灯など様々な品目の回収拠点を掲載しておりますので、ぜひご参照ください。

資源ぐるりマップ：<https://sigengururi.env.go.jp/?city=kobe>



○実証事業に関する問い合わせ先：

（回収実証・資源ぐるりマップに関すること）

三菱総合研究所 G X 本部 サキュラーエコミゲループ 内：Email (lib_info@ml.mri.co.jp)

（神戸市に関すること）神戸市環境局資源循環課：TEL（078-595-6078）

（ローソンに関すること）株式会社ローソン 広報部：TEL（03-5435-2773）

環境省「令和7年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」における 自治体と事業者の連携によるリチウムイオン電池等回収実証事業

神戸市(兵庫県)と守谷市(茨城県)において、株式会社ローソンの協力を得て新たな回収場所を設置する実証事業を実施します。本実証事業は、リチウムイオン電池の誤ったごみ区分への混入を防止し、自治体等の処理施設や収集車両での火災事故を防ぐことを目的とし、自治体とリチウムイオン電池等の販売事業者とが協力して回収を行うことを後押しするものです。市民の排出のしやすさを考慮した効果的な回収を実施することで、リチウムイオン電池の回収量の増加を図り、適切なリサイクルを推進します。

また、同時に、リチウムイオン電池、小型家電等の回収場所を地図上に示す「資源ぐるりマップ」の効果について、同2市において、試験的な運用を行います。

本実証事業は、環境省「令和7年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」の一環として、株式会社三菱総合研究所が受託して実施するものです。

1. 実証事業の概要

以下の2つの実証事業を実施します。

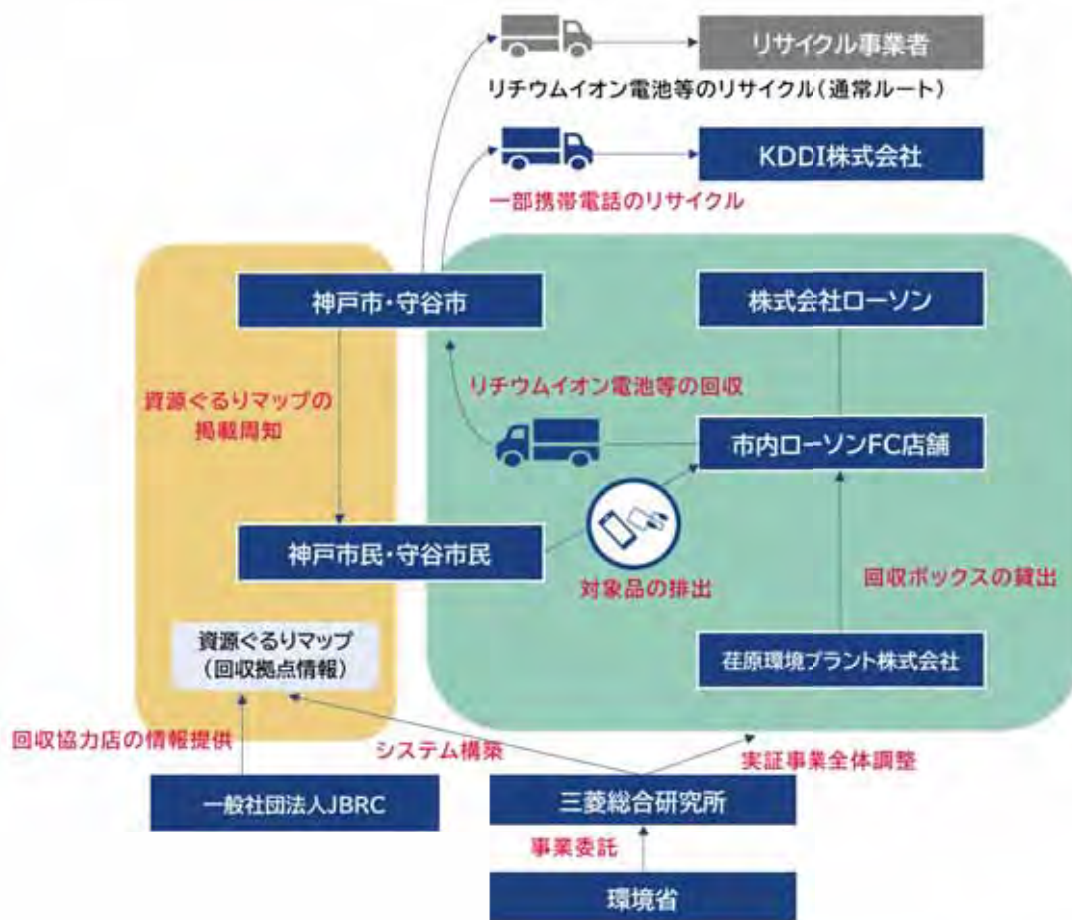
- 神戸市、守谷市のコンビニエンスストア「ローソン」に各2店舗の協力店を選定し、リチウムイオン電池使用製品であるモバイルバッテリー、加熱式たばこ、携帯電話の3品目を回収する実証を実施します。
- 神戸市、守谷市における小型家電及びリチウムイオン電池等の資源回収拠点を見える化することで、市民の適正な排出を促すため、ウェブシステム「資源ぐるりマップ」を試験的に運用します。同ウェブシステムには、一般社団法人JBRCの回収協力店舗の情報も併せて掲載します。

2. 実施期間

- 2025年10月15日(水)～2026年1月31日(土)
 - 一部店舗の開始時期は、2025年12月中旬を予定。
 - 年末年始の2025年12月26日(金)～2026年1月4日(日)は回収を休止する。

3. 連携事業者と主な役割

- 環境省：事業主体として事業を所管
- 神戸市・守谷市：実証事業への協力自治体として、リチウムイオン電池使用製品の回収・処理、資源ぐるりマップの掲載、市民への周知を実施
- 株式会社ローソン：協力店舗4店舗における回収ボックスの設置、回収店舗での運用方法の検討
- 荏原環境プラント株式会社：温度センサー、重量センサー付き回収ボックスの貸出
- KDDI株式会社：既存リサイクルルートを活用し、一部携帯電話のリサイクルを実施
- 一般社団法人JBRC：神戸市、及び守谷市とその周辺自治体にあるリチウムイオン電池の回収協力店情報を「資源ぐるりマップ」へ提供
- 株式会社三菱総合研究所：事業受託者(実証事業事務局)



4. 実証による新たな回収場所

- ローソン神戸市役所西店(住所:神戸市中央区江戸町96)
- ローソン神戸星陵台五丁目店(住所:神戸市垂水区星陵台5-11-1)※
- ローソン守谷松並庚塚店(住所:守谷市松並 1625-1)
- ローソン守谷大柏店(住所:守谷市大柏 251-1)※

※2025 年 12 月中旬より回収開始

5. 回収ボックスについて

- ローソンに設置する回収ボックス(荏原環境プラント株式会社製)は、火災・発火の防止と、回収の安全性に配慮した構造となっています。

① 発火リスクを抑えた設計

回収ボックスは金属製の構造で、内部で万が一発火した場合でもボックス内で完結するように設計されています。また、大型物の投入を防ぐ投入口の構造、衝撃吸収マットを備えたパール缶を設置しています。

② 遠隔監視システム

内部に設置した温度センサーや重量センサーで温度や重量をモニタリングできます。異常発生時には予め設定された担当者にアラートメールが送信されます。

7. 検証項目

● 回収実証事業

- ローソン店舗において、リチウムイオン電池使用製品を安全かつ、効率的に回収できることを検証する。
- 回収対象のリチウムイオン電池使用製品の回収量、製品別の構成比率を確認し、適切な回収対象製品を検証する。
- ローソン店舗での回収が、市民にとって利便性向上に資するものであることを検証する。

● 資源ぐるりマップ

- 「資源ぐるりマップ」での回収対象製品別の回収拠点情報の提供が、市民への情報提供手段として有効かを検証する。
- 誰にでも使いやすく、分かりやすいウェブシステムになっているか検証する。

8. 本事業に関する問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所

GX 本部

サーキュラーエコノミーグループ内

環境省「令和7年度リチウム蓄電池等適正処理対策検討業務」における

自治体と事業者の連携によるリチウムイオン電池等回収実証事業 事務局

(lib_info@ml.mri.co.jp)

携帯電話・
スマートフォン

モバイル
バッテリー

加熱式たばこ・
電子たばこ

リチウムイオン電池 回収事業実施中!



携帯電話・スマートフォンやモバイルバッテリー、加熱式たばこなどの小型家電の多くには、リチウムイオン電池が内蔵されています。これらにはコバルトやニッケルなどの有用金属であるレアメタルが含まれていますが、資源として十分回収されているとは言えません。また、家庭から出る使用済みのリチウムイオン電池が、適切に分別されずに燃えないごみなどで排出され、収集運搬車両やごみ処理施設において火災発生の原因となっています。

神戸市では、リチウムイオン電池や内蔵製品を適切に回収・リサイクルするために、小型家電リサイクルボックス・電池類回収ボックスを設置しています。今回、販売店との連携による新たなリチウムイオン電池の回収の仕組みを検討するため、環境省の実証事業の一環として、神戸市・株式会社ローソンの協働による回収事業を実施しています。※環境省「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」(2025年9月～)との連携事業

回収期間

2025年10月15日(水)～2026年1月31日(土)

※2025年12月26日(金)～2026年1月4日(日)の間は回収を休止いたします

回収場所

ローソン神戸市役所西店(神戸市中央区江戸町96)

回収対象

①携帯電話・
スマートフォン



回収対象は
この3つ

③加熱式たばこ・
電子たばこ

※吸い殻は入れないでください

②モバイル
バッテリー

回収ボックス



こちらの投入扉を
開けて対象物を
入れてください

※ボックスへの入れ方やテープの貼りは
ボックスにも記載しています。

注意事項

- ・膨張・劣化した製品は火災の恐れがあるため、回収ボックスには絶対に入れないでください。
- ・回収ボックスの投入口(10cm×15cm×15cm 以内)に入るものに限りです。
- ・回収対象以外は投入しないでください。
- ・一度ボックスに投入されたものは返却することができません。
- ・リチウムイオン電池はできるだけ使い切った状態(充電がない状態)で投入してください。
- ・通電による発熱・発火・破裂を防ぐため、ご家庭で端子部分にテープを貼ってから投入してください。

実証事業の期間中、市内の資源回収拠点(電池類、小型家電、古紙、蛍光灯等)を環境省の作成した「資源ぐるりマップ」で検索できます。回収拠点ごとに回収可能な品目や回収可能な曜日・時間帯等の情報が把握可能です。近隣の民間回収施設も掲載されています。是非、アクセスしてみてください。



携帯電話・
スマートフォン

モバイル
バッテリー

加熱式たばこ・
電子たばこ

リチウムイオン電池 回収事業実施中!



携帯電話・スマートフォンやモバイルバッテリー、加熱式たばこなどの小型家電の多くには、リチウムイオン電池が内蔵されています。これらにはコバルトやニッケルなどの有用金属であるレアメタルが含まれていますが、資源として十分回収されているとは言えません。また、家庭から出る使用済みのリチウムイオン電池が、適切に分別されずに燃えないごみなどで排出され、収集運搬車両やごみ処理施設において火災発生の原因となっています。

神戸市では、リチウムイオン電池や内蔵製品を適切に回収・リサイクルするために、小型家電リサイクルボックス・電池類回収ボックスを設置しています。今回、販売店との連携による新たなリチウムイオン電池の回収の仕組みを検討するため、環境省の実証事業の一環として、神戸市・株式会社ローソンの協働による回収事業を実施しています。※環境省「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」(2025年9月～)との連携事業

回収期間

2025年12月中旬～2026年1月31日(土)

※2025年12月26日(金)～2026年1月4日(日)の間は回収を休止いたします

回収場所

ローソン神戸星陵台五丁目店(神戸市垂水区星陵台5丁目11-1)

回収対象

①携帯電話・
スマートフォン



回収対象は
この3つ

②モバイル
バッテリー



③加熱式たばこ・
電子たばこ



※吸い殻は入れないでください

回収ボックス



こちらの投入扉を
開けて対象物を
入れてください

※ボックスへの入れ方やテープの貼りは
ボックスにも記載しています。

注意事項

- ・膨張・劣化した製品は火災の恐れがあるため、回収ボックスには絶対に入れないでください。
- ・回収ボックスの投入口(10cm×15cm×15cm 以内)に入るものに限りです。
- ・回収対象以外は投入しないでください。
- ・一度ボックスに投入されたものは返却することができません。
- ・リチウムイオン電池はできるだけ使い切った状態(充電がない状態)で投入してください。
- ・通電による発熱・発火・破裂を防ぐため、ご家庭で端子部分にテープを貼ってから投入してください。

実証事業の期間中、市内の資源回収拠点(電池類、小型家電、古紙、蛍光灯等)を環境省の作成した「資源ぐるりマップ」で検索できます。回収拠点ごとに回収可能な品目や回収可能な曜日・時間帯等の情報が把握可能です。近隣の民間回収施設も掲載されています。是非、アクセスしてみてください。



【兵庫県初出店】不用品を地域で譲り合うリユース拠点 「ジモティースポット神戸ジェームス山」の開設

本市と株式会社ジモティーは 2023 年 5 月に締結した「神戸市と株式会社ジモティーとのリユース活動の促進に向けた連携と協力に関する協定書」に基づき、リユース活動の促進を図ってきました。

このたび、本協定書に基づき、株式会社ジモティーが官民連携のリユース拠点として「ジモティースポット神戸ジェームス山」を 10 月 31 日（金曜日）に開設します。

※詳細は添付の株式会社ジモティーによるプレスリリース資料をご参照ください。

1. ジモティースポットとは

ジモティースポットは、「不要になったけれどもまだ使えるモノ」を地域のコミュニティ内で譲り合うことができるサービスです。持ち込み希望の方は、ジモティースポットに持ち込むだけで、手軽に必要なとする人に譲渡することができます。そして、譲り受け希望の方は、持ち込まれたモノの情報を地域の情報サイト「ジモティー」で検索し、ジモティースポットで引き取ることでマッチングが成立する仕組みとなっています。

2. ジモティースポット神戸ジェームス山の詳細

場 所：神戸市垂水区青山台 7 丁目 5 番 14 号

開 設 日：2025 年 10 月 31 日（金曜日）

営 業 時 間：10 時～19 時（年末年始休み）

取 扱 品 目：家電、趣味・スポーツ用品、子供用品、生活雑貨、家具、食器、
衣料品、服飾雑貨、本、CD・DVD、ペット用品 等

※神戸市民の家庭で不要になったモノでまだ使えるものが対象です。

ウェブサイト：https://jmt.y.jp/about/jmtyspot_kobe



3. ジモティースポットに関する問い合わせ先

（報道関係者様）

株式会社ジモティー 広報 G 木下 E-Mail：press@jmt.y.jp

（一般のご利用者の方）

ジモティースポット神戸ジェームス山 E-Mail：Jmty.Jamesyams@ccc.co.jp

※一般の方からの問い合わせについては、10 月 25 日以降の受付となります。

2025 年 10 月 17 日
株式会社ジモティー
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

ジモティーと CCC のコラボレーション第 1 弾として兵庫県に初出店！

「ジモティースポット神戸ジェームス山店」が 10 月 31 日にオープン

～上半期で 1,600 トンのごみ減量、全国で広がる官民連携の仕組みが神戸に～



株式会社ジモティー（本社：東京都品川区、代表取締役社長：加藤 貴博、以下「ジモティー」）と、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長兼 CEO：高橋 誉則、以下「CCC」）は、2025 年 7 月に締結した基本合意書に基づくコラボレーションの第 1 弾として、2025 年 10 月 31 日（金）、兵庫県神戸市垂水区に「ジモティースポット神戸ジェームス山店」をオープンいたします。本店舗は、官民連携型のリユース拠点としては兵庫県で初の出店となります。

ジモティーと CCC は、地域社会の課題解決やコミュニティ活性化に貢献する新たな取り組みとして、「ジモティースポット」の展開を共同で推進しています。「ジモティースポット」は、「不要になったがまだ使えるモノ」を地域コミュニティ内で気軽に譲り合うことができるサービスで、持ち込み希望の方は店舗に品物を持参するだけで、必要とする方へ手軽に譲渡できます。また、譲り受け希望の方は、地域情報サイト「ジモティー」で品物を検索し、店舗で引き取ることでマッチングが成立します。

両社はこの仕組みを通じて、リユース拠点の提供にとどまらず、地域住民を対象としたイベントやコミュニティの活性化として、地域と人をつなぐさまざまな取り組みを共同で展開していきます。また、CCC および CCC グループ会社は「ジモティースポット」のフランチャイズに加盟し、従来の店舗形態にとらわれない新たな業態の開発・出店にも挑戦することで、地域のリユース文化の拡大を目指します。

■「ジモティースポット神戸ジェームス山店」について

「ジモティースポット神戸ジェームス山店」は、ジモティーと神戸市が 2023 年 5 月に締結したリユースに関する協定に基づき出店する官民連携のリユース拠点です。多様な分野で新たな価値を創出し、知的資本を活用して課題解決を目指すソリューション事業を展開する CCC の協力のもと運営されます。

◆不要品を持ち込む方のメリット

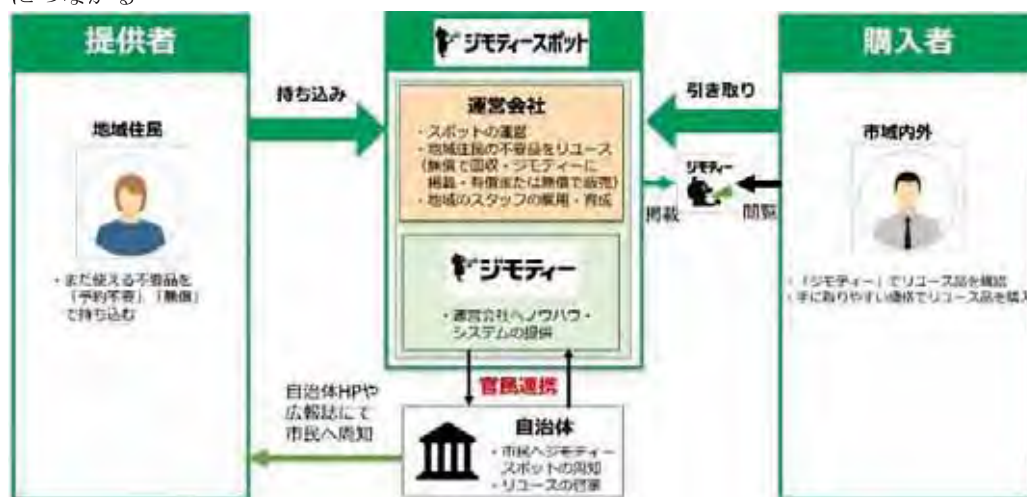
- ・事前予約が不要で簡単に不要品を引き渡せる
- ・粗大ごみ処分の際に必要な手数料が不要

◆不要品を譲り受ける方のメリット

- ・手に取りやすい価格でリユース品を購入できる、一部無料で引き取れる商品も
(例. 炊飯器が 300 円、椅子が 0 円…など)

◆自治体のメリット

- ・ごみとして捨てる以外にリユースする選択肢を広げることができ、ごみ減量活動の促進につながる



ジモティースポットの仕組み

本店舗では、まだ使える家具・家電・子ども用品・レジャー用品・衣類・食器・本などの持ち込みが可能です。持ち込まれた品物は、店舗を訪れるだけで購入・引き取りができ、利用者は手軽にリユース活動に参加できます。また、不要品を持ち込む際の事前予約は不要です。

- ・住所：兵庫県神戸市垂水区青山台7丁目5番14号
- ・オープン：2025年10月31日(金曜日)
- ・営業時間：10時～19時

- ・定休日：年末年始
- ・持ち込み対象品：まだ使える家電、趣味・スポーツ用品、子供用品、生活雑貨、家具、食器、衣料品、服飾雑貨、本、CD・DVD、ペット用品 等
※神戸市民の家庭で不要になったモノが対象です。
- ・店舗 HP：https://jmtty.jp/about/jmtyspot_kobe
※サービス内容等は予告なく変更する可能性があります。

■店舗オープンにあたってのご挨拶

【神戸市】環境局長 柏木 和馬氏



このたび、「ジモティースポット」が神戸市に開設されますことを大変うれしく思います。

誰もが手軽に不要品を持ち込むことができ、店舗を介して必要な人に譲り渡すことができるリユーススポット。この新しいサービスにより、リユースの選択肢が大きく広がります。多くの市民に訪れていただき、リユース文化の拡大と地域コミュニティの活性化につながることを期待しています。

■ジモティーの運営するリユース拠点におけるごみ減量の取組み結果

これまでジモティーではオープン前の店舗も含む20自治体でジモティースポットを運営しています。2025年上半期には全国の拠点で累計約50万点のモノがリユースされ、1,600トンのごみ減量効果*を生み出しました。

▼リユース拠点の取組み詳細について

<https://jmtty.co.jp/ir/community/>

ジモティーでは、現在245箇所の自治体と協力し、全国でごみ減量に向けた取組みを行っています。今後も地元で個人・企業・行政が一体となって持続可能な社会の実現に寄与できるサービスを運営してまいります。地域内での資源循環の促進やごみの削減を検討されている、全国の自治体や企業からのお問い合わせをお待ちしております。

*持ち込まれた不要品の平均重量、リユースされた件数から算出

〈ジモティースポットFC加盟を希望される事業者様 問い合わせフォーム〉

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfoSDVnZ6hRJSK9t80T5fnLSKUtpPhc8jeEiizo0WMRgcDcU7Q/viewform>

〈提携を希望される自治体様 問い合わせフォーム〉

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSepC3XJpQA5cTRAaTuK-k0w4oZiZ7NmgYmzbsIldhRzKsKZww/viewform>

〈本件に関して報道関係の皆様からのお問い合わせ先〉

株式会社ジモティー 広報 G 木下

MAIL：press@jmtty.jp

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 広報部

TEL：045-522-8154／MAIL：inquiry@ccc.co.jp

家電・楽器・ゴルフ用品などの不要品 簡単に持ち込みいただけます

神戸市とのリユース協定に基づく事業

NEW OPEN

ジモティースポット神戸ジェームス山店

オープン日 10/31(金)

お持ち込みいただいたモノは、地域の方にリユースさせていただきます



予約不要
直接持ち込み可能



5分で完了
持ち込んで渡すだけ



無料引取
何品でもOK

地域のごみ削減のために、まだ使えるモノは捨てずにリユースしましょう!



簡単3ステップ

- 01 来店受付**
他店受付表に必要事項をご記入ください
- 02 状態や動作の確認**
次の方が気持ちよく使えるようご確認ください
- 03 指定の場所に置く**
指定の場所にモノを置いて完了です

持ち込み対象のモノ

次の人が使える状態のモノであれば、家電・趣味・レジャー・スポーツ用品、子ども用品、衣料品、服飾雑貨、生活雑貨、食器、書籍・コミック、CD・DVD、家具(3辺合計180cm未満)等をお持ち込みください。

一部対象外：家具(3辺合計180cm以上)、リサイクル家電4品目、19インチ以上の自転車、マットレス・寝具など、その他持ち込みできないモノに関しては、右記のQRコードよりご確認ください。

詳細は
Webページから
ご確認ください



リユース品の譲渡・販売も
行っています
在庫確認はこちら



ご案内事項

- ・神戸市のごみ減量化を目的としているため、持ち込みは神戸市民に限ります。(なお、ご購入・揮売は、どなたでもご利用いただけます。)
- ・他の方が気持ちよく使える状態にないものなど、他の方へのお譲りが難しいと判断される場合、お持ち帰りいただくことがあります。



ジモティースポット 神戸ジェームス山店

神戸市垂水区青山台7丁目5番14号

営業時間 10:00~19:00

定休日 年末年始

※ 予告なく内容・実施期間・営業時間を変更する場合があります。

※ 車両などによる事故・トラブルに関して、ジモティースポットの敷地内外にかかわらず、ジモティーおよび神戸市は一切責任を負いません。



ジモティースポットでは、神戸市と株式会社ジモティーが提携して、不要品のリユース促進によるごみの減量化を目指しています。